

郡上山づくり構想

美しい山々と

清らかな清流を

子供たちへ伝えたい



「未来につなぐ豊かで美しい山」を目指して

郡上市長

日置敏明



「緑したたる山なみに きらめく水の長良川 奥美濃の地を潤して 実り豊かな七郷よ」と市の歌にも謳われているように、郡上市は四季折々の美しい風景に恵まれた自然豊かな地域です。

この豊かな地域で生きる私たちには、大切にしなければならないものがあります。それはこの地に誇りをもって生きてきた先人たちが、未来の子孫たちに託した山への思いです。美しい山から生まれた一滴の雫は、やがて大きな川となりすべての生き物のいのちを潤しながら海へと注ぎます。豊かな山を守り、育てることは、いのちを守り育てることであり、後世に向かっていのちをつなげていくことでもあるのです。

郡上市の先人の努力により守りつくられた山々は、これまで市民の生活や多様な産業を支え、地域に根付いた歴史や文化、伝統を育んできました。

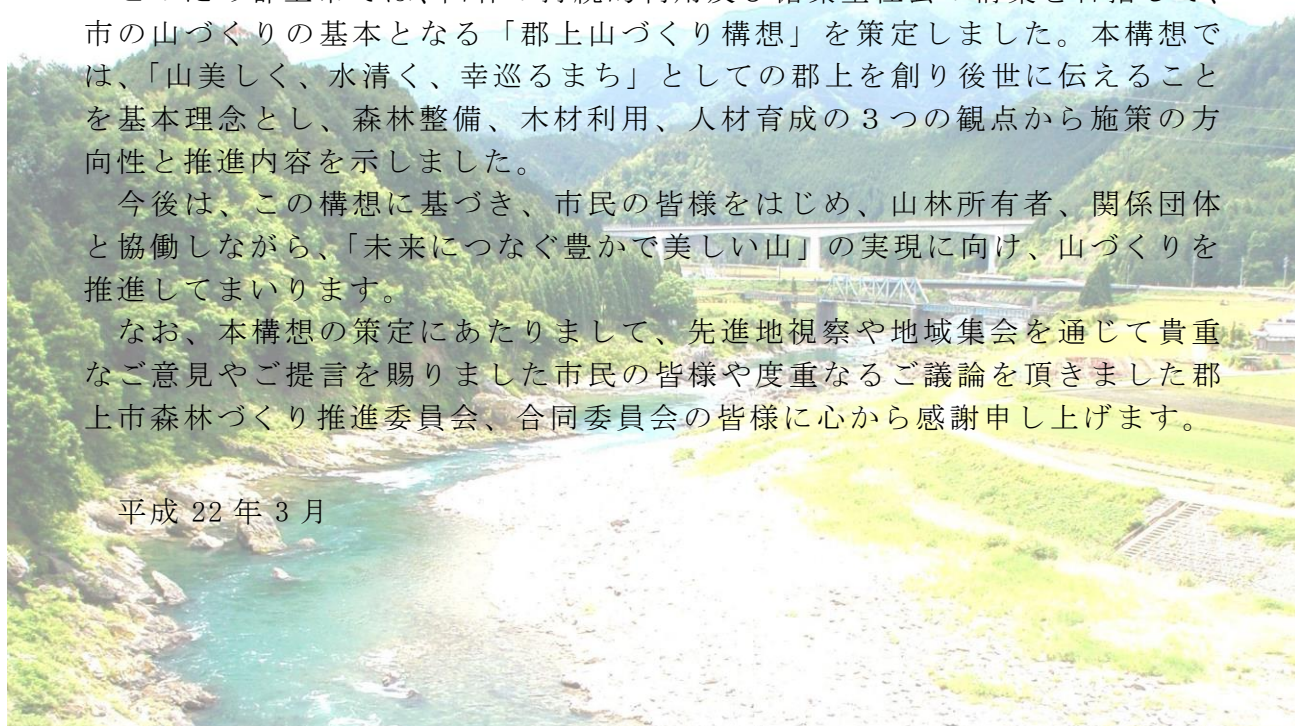
しかし現在、国内の林業・木材産業は低迷が続いており、郡上市においても林業産出額及び林業・木材関係就労者数は減少傾向にあり、これまで林業生産活動によって維持管理されてきた山々は公益的機能の低下が危惧されています。また山と市民との関係も希薄化しつつあります。

このため郡上市では、山林の持続的利用及び循環型社会の構築を目指して、市の山づくりの基本となる「郡上山づくり構想」を策定しました。本構想では、「山美しく、水清く、幸巡るまち」としての郡上を創り後世に伝えることを基本理念とし、森林整備、木材利用、人材育成の3つの観点から施策の方向性と推進内容を示しました。

今後は、この構想に基づき、市民の皆様をはじめ、山林所有者、関係団体と協働しながら、「未来につなぐ豊かで美しい山」の実現に向け、山づくりを推進してまいります。

なお、本構想の策定にあたりまして、先進地視察や地域集会を通じて貴重なご意見やご提言を賜りました市民の皆様や度重なるご議論を頂きました郡上市森林づくり推進委員会、合同委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 22 年 3 月



Contents 目次

	ページ
第1 はじめに	
1 策定背景と趣旨	2
2 策定にあたって	3
第2 現状と課題	
1 郡上市の山林の現状と課題	6
2 郡上市の林業の現状と課題	10
3 山林をとりまく現状と課題	12
第3 郡上市の山づくり	
1 山づくりの基本理念	16
2 山づくりの考え方	18
3 目指す山の姿	20
□ 森林の持つ多面的機能	22
第4 基本方向と基本的施策	
1 基本方向	24
2 基本的施策	26
第5 具体的事業	
1 具体的事業	29
□ 施策体系図	40
第6 推進体制	
1 協働による山づくり	42
2 山づくりの推進体制	43
資料	
1. 山づくり構想策定の経過	46
2. 委員名簿	54
□ 用語の説明	56

第1 はじめに

1. 策定背景と趣旨
2. 策定にあたって

第 1. はじめに

1 策定背景と趣旨

平成 16 年に 7 町村が合併して誕生した郡上市は、市総面積の 9 割を山が占め、長良川をはじめとした 1 級河川を 24 本有する、水と緑に恵まれた地域です。先人たちは山と深い関わりを持ち、その豊かな山々からもたらされる数々の恵みを享受しながら、幾世代にわたり生活を営んできました。

しかし近年、外国産木材の輸入増加による国内木材産業の低迷や、過疎化・高齢化の進行などによる山林所有者の山離れ・林業離れが進み、先人たちが開拓しつくりあげてきた山は放置され荒廃が進んでいます。それにより、本来の森林の持つ豊かな水を育み蓄える機能や山崩れ等の災害を防止する機能、二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防止する機能、木材を生産する機能などの公益的・経済的機能は低下し、今後の市民生活への様々な影響が懸念されています。

このため、適正な森林管理により市民および流域住民の安全・安心な暮らしを守るとは水源地、最上流域に位置する郡上市の重要な責務であると考え、森林の持つ多面的機能の維持向上、また豊富な森林資源を生かした地域の活性化を目指し、長期的な視点で計画的に山づくりを進める必要があります。

そこで山と市民との関わりやそれぞれの果たすべき役割を明確にし、市民協働による持続可能な新しい山づくりを進め、この豊富な森林資源を郡上の誇りとし次世代へ守り伝えることを目的として郡上山づくり構想を策定しました。

2 策定にあたって

(1) 山づくり構想の位置づけ

この構想は、「郡上市の森林・林業」と「山と市民との関わり」の100年先をどのような姿に導いてゆくか、そのためにどういった施策をとるのかを示したものです。

なお、国策定の全国森林計画や県策定の長良川地域森林計画、郡上市森林整備計画、郡上市総合計画との整合を図りながら策定しています。



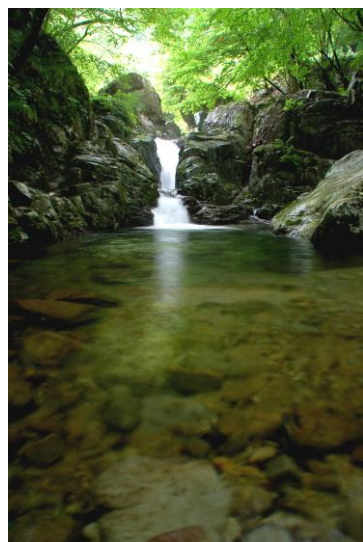
(2) 山づくり構想の設定期間

山づくりには長い年月と労力が必要となるため、100年後の将来の姿を描きながら、それを実現するために30年間の目標を設定します。

また、社会経済情勢の変化や市民の意向などに対応するため、必要に応じて随時見直すこととします。

＜将来像＞ 100年

＜目標＞ 30年



第1. はじめに

山が元気だと魚も
元気になるんだって



高鷲町ひるがのにて開催された第39回岐阜県みどりの祭りでは、分水嶺公園で魚の放流が行われました。

郡上市は白鳥町の銚子ヶ峰(1,810m)を最高峰に、美並町木尾(110m)まで高低差が大きく、そこに多くの河川が育まれています。高鷲町にはひるがのを分水嶺として太平洋に注ぐ長良川と、日本海に注ぐ庄川が流れ、和良町の和良川は飛騨川となり木曽川になって太平洋に、白鳥町の石徹白川は九頭竜川となって日本海へ注いでいます。

郡上の豊かな河川で育まれた「長良川の郡上鮎」と「和良川の鮎」は、全国各地の川で捕られた鮎の味を競う「清流めぐり利き鮎会」でグランプリをとり、名実ともに郡上の川の美しさを証明しています。

第2 現状と課題

1. 郡上市の山林の現状と課題
2. 郡上市の林業の現状と課題
3. 山林をとりまく現状と課題

第2．現状と課題 ～郡上市の山林・林業をとりまく現状と課題～

1．郡上市の山林の現状と課題

①郡上市の山林

郡上市の山林面積は92,612haと総土地面積の約90%を占めています。そのうち、国が管理する国有林はわずか3%で、残りの97%は民有林^{※1}です。

民有林のうち、県や市が管理する公有林は9%で、個人の所有する私有林が91%とほとんどを占めており、私有林の整備・保全が重要な課題といえます。

②人工林の現状

郡上市の山林面積の5割がスギ・ヒノキを中心とした人工林となっています。

民有林の人工林率は55%で県平均の45%を大きく上回っており、樹種別では針葉樹のスギが27%、ヒノキが27%で、ナラなどの広葉樹が40%となっています。

また、人工林の齢級^{※2}別面積をみると7～10 齢級が突出しており、全体の約70%を占めています。これらは、戦後の拡大造林^{※3}政策により昭和30年代から50年代にかけて造林されたもので、ほとんどが伐期^{※4}を迎えており、今後はこの豊富な資源を積極的に活用していく必要があります。しかし一方で、造林^{※5}面積は昭和40年代後半から減少し続けているため、人工林の林齢^{※6}構成には大きな偏りがみられ、計画的な造林により林齢の平準化を図る必要があります。

③間伐^{※7}等の手入れが必要な人工林

人工林は天然林とは異なり、成育過程で間伐等の手入れが必要です。手入れのされない人工林は、土がやせ保水力が失われるだけでなく、土砂崩れの恐れも高くなります。現在、郡上市の人工林の65%にあたる約30,000ha、蓄積量にすると約7,260,000 m³が間伐対象林分（3～9 齢級）ですが、対象の時期に間伐がされていない10 齢級以上の人工林も多くあります。これらの人工林を全て間伐するには、今後さらに計画的かつ効率的な間伐を実施していくことが必要です。

また、成熟しつつあるスギ・ヒノキ人工林が花粉を盛んに発生させる林齢となっているため、間伐による立木密度調整や枝打ちによる樹冠量調整に取り組むとともに、研究されつつある花粉の少ないスギ品種の普及に取り組むことも必要です。

※1 民有林 個人・法人が所有する私有林と県や市町村が所有する公有林の総称で、国有林に対比して使われる。

※2 齢級 樹木の林齢を5年でひとくくりにし、林齢1～5年生までを1 齢級、6～10年生までは2 齢級となる。

※3 拡大造林 主に広葉樹からなる天然林を伐採した跡地などを針葉樹の人工林に置き換えること。

※4 伐期 育林した立木が伐採、収穫に至るまでの時期（主伐が予定される時期）で標準伐期齢はスギが40年、ヒノキが50年。

※5 造林 樹木を植え育てること。

※6 林齢 人工林では、苗木を植えた年を1年生として、以降2年生、3年生と数える。

※7 間伐 植林された樹木の成長過程で一部の立木を抜き切りして密度を調整し、残存木の成長を促す作業。

郡上市の山林の現状

郡上はほとんどが山
市総面積の9割が山林です。

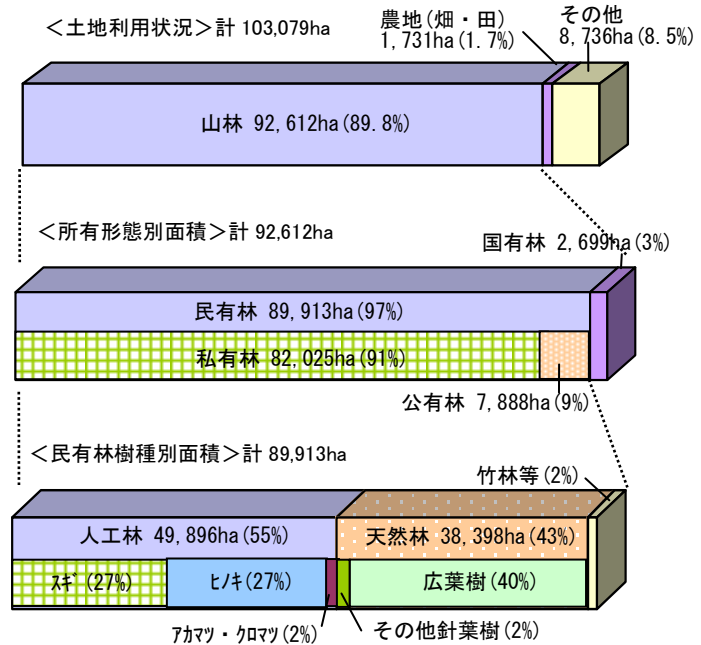
山の持ち主は個人が多い
山林の所有形態は9割が
私有林です。

郡上の山の半分は人工林
人工林が5割、天然林が4
割です。

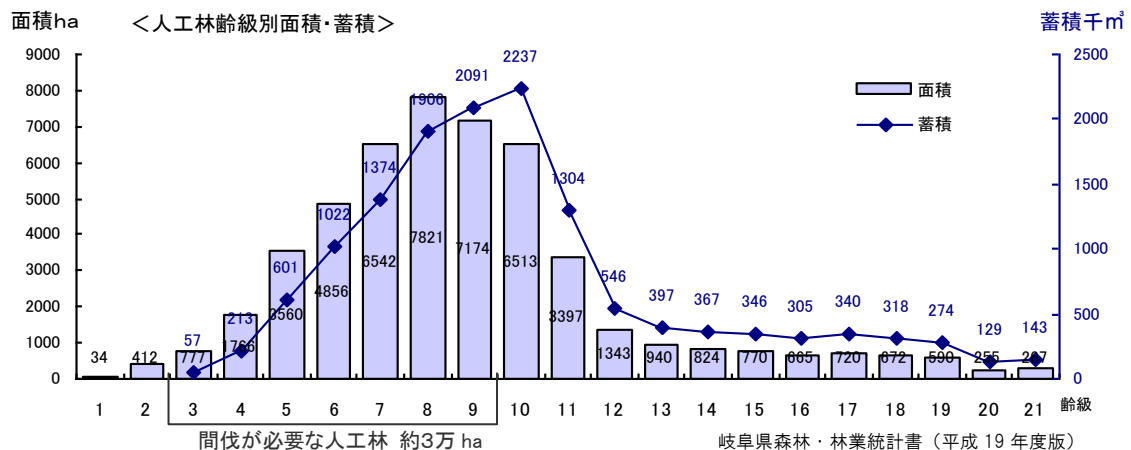
スギとヒノキの割合が高い

伐期を迎えた人工林が多い
伐期を迎えた林分も多くありますが、林齢構成には偏りが見られます。

間伐が必要な人工林も多い
3～9 齢級までの人工林は間伐が必要で、約3万 ha が間伐対象林分です。また、10 齢級以上でも
間伐がされていない林分が多くあります。



岐阜県森林・林業統計書（平成19年度版）



<郡上市民有林間伐実績>

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
間伐面積	1,750	1,771	2,308	2,125	2,833	3,247	3,456	3,236	3,023

④森林病害虫※1、野生動物による被害

近年、市内の広範囲でカシノナガキクイムシ※2によるナラ枯れ、松くい虫※3によるマツ枯れが発生し、その被害は年々拡大しています。また、シカが植林した苗木を食べたり、角をこすりつけ樹木の皮を剥ぐなど、野生動物による被害も発生しています。

野生動物の生息数が増えたことや、人が山に入らなくなったことで、居住地の周辺にまでイノシシやシカが頻繁に出没して耕作地を荒らすようになり、農作物への被害は深刻なものとなっています。



人里に頻繁に出没するようになったシカ(和良町)

<有害鳥獣捕獲数と農業被害額の推移>

年	H17	H18	H19	H20	H21
捕獲数(頭)	417	466	426	492	603
農業被害額(千円)	41,532	75,650	66,979	66,324	—

捕獲数及び被害額は年々、増える傾向にあります。

⑤山地災害

平成11年の「9.15災害」と平成16年の「台風23号災害」では、記録的な豪雨により土砂の流出とともに樹木が連鎖的に倒れ、多数の流木被害や林地崩壊が発生し、当市の山林は大きな被害を受けました。また、平成14年と平成16年には、大雪による倒木被害が発生しています。

こうした災害は木材の被害だけでなく、倒木による道路の遮断や送電線の切断等、日常生活にも大きな影響を及ぼします。また、谷底におちた倒木を放置すると、河道閉塞などを引き起こし大雨時に一気に流出して大規模な災害となり、流域全体に被害を与えかねません。

災害を未然に防止するためには、間伐の実施等適切な森林の管理を行い、本来の森林が持つ土砂災害を防止する機能を高める必要があります。

※1 森林病害虫 森林を構成する樹木を侵す微生物及び昆虫等の総称。

※2 カシノナガキクイムシ コナラなどの木材の内部まで穿孔して繁殖する昆虫の一種。

※3 松くい虫 マツを加害するカミキリムシ、キクイムシ、ゾウムシ、キバチの総称で、一般には、マツを枯らす線虫(マツノザイセンチュウ)を媒介するマツノマダラカミキリのこと。

手入れされた山林



間伐がされ、日が良く入り下草が繁茂した林内



間伐実施後の林内。間伐材は、道がなく搬出できない場合、林内にそのまま残されます。



植栽作業。スギの場合は 1ha (100m×100m) あたり 3,000 本程度を植えます。



下刈作業。苗木が周囲の雑草より大きくなるまで行います。

手入れの必要な山林



間伐を行わないと木が混み合った状態になり、日光が入らず下草が成長できません。表土がなくなり根がむき出しになった状態。



大雪によって被害を受けた山林。木が太く成長していなかったため、雪の重みに耐えられず折れてしまった。



2. 郡上市の林業の現状と課題

①林家と所有規模

保有山林が1ha以上の林家戸数は減少傾向にあります。

林家数は平成12年には4,687戸でしたが、平成17年には4,484戸となり、5年間で203戸減少しています。また、林家の65%は保有山林が5ha未満と零細な所有規模で、所有地も分散していることが多いため林業の採算性が合わず、林業を主体とする林家は極めて少なくなっており、資産としてのみ保有する林家が大半を占めています。

こうした小規模山林所有者の採算性を高めるためには、山林の団地化を進め施業の集約を図ることが必要です。

②林業労働力の減少

林業従事者は、昭和54年には974人いましたが、平成17年には175人にまで減少し、高齢化も進んでいます。郡上森林組合においても平成16年には115人いた森林技術者が、平成20年には82人と5年間で33人減少しています。この先、山林を整備・管理する林業従事者が不足する可能性が高く、今後労働力をいかに安定的に確保するかが大きな課題となっています。一方、都会から移住し山で働くことを希望する若者も増加していることから、雇用先の確保や住宅の整備等受け入れ体制の整備も必要です。しかし、一旦林業に就業しても労働条件が厳しいことから、継続しないこともあり、労働条件の改善等も重要な課題となっています。

③林業の低迷

平成19年の林業粗生産額^{※1}は、岐阜県全体で67億円と昭和55年の316億円と比べ約5分の1にまで落ちこんでいます。この主な原因は、昭和39年に木材輸入が自由化され、価格の安い外国産材が増大し国産材の価格が低迷したことが挙げられます。製材品価格や素材^{※2}価格が下落し続けたなかで、伐採や搬出作業にかかる賃金は一定の水準で上昇したために、山林所有者の収入にあたる立木価格^{※3}にしわ寄せが行き、林業所得は大きく減少しました。その結果、山林所有者の意欲は低下し、造林や保育、伐採などの林業はほとんど行われなくなりました。

林業の採算性を高めるためには、林内路網^{※4}の整備や機械化・団地化を推進し、林業経営の低コスト化・効率化を図ることが必要です。また、地産地消や木造建築の推進により木材の需要拡大を図りながら、販路・流通体制を整備し、安定した供給体勢を構築していくことも重要です。

※1 林業粗生産額 林業生産活動によって生み出された林産物の生産量に、それぞれの価額を乗じて産出した額。

※2 素材 立木を伐採し、造材した丸太。

※3 立木価格 市場での価格から経費などを差し引いた立木の状態で価格。

※4 林内路網 林道・作業道で構成される道路のネットワーク。

郡上市の林業の現状

＜林家数、就業者数＞

年	林家数	就業者数					
		第1次産業				第2次産業	第3次産業
		農業	林業	漁業	計		
H12	4,687	1,230	240	25	1,495	9,963	12,624
H17	4,484	1,183	175	25	1,383	8,603	13,175
	-203	-47	-65	0	-112	-1,360	551

農林業センサス（2000・2005）

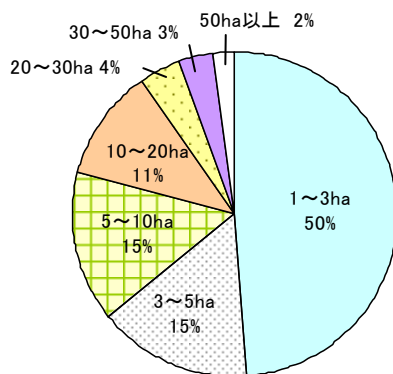
林家数、林業就業者数は減少

木材関係業者数も減少

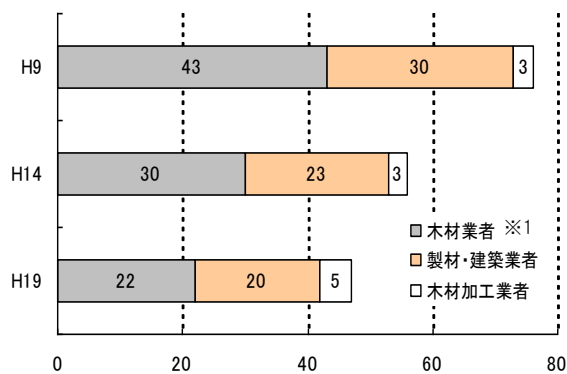
小規模山林所有者が多い

山林所有者の8割は5ha未満の小規模所有者です。

＜個人有林の所有規模別林家数＞



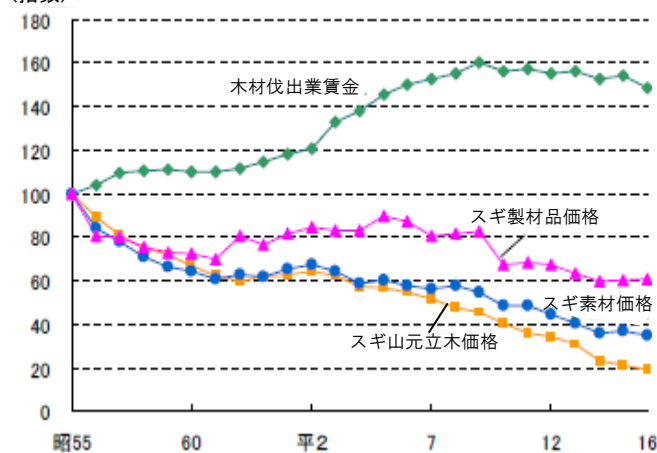
＜木材関係業者数＞



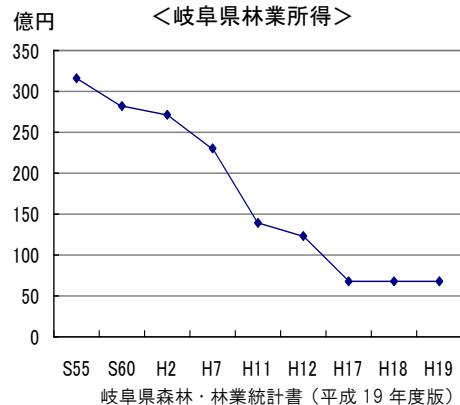
林業の低迷

木材価格は昭和55年をピークに下落しましたが、木材伐出業賃金は上昇しており、林業の採算性は悪化しています。それに伴い、林業所得も減少を続けています。

＜山元立木価格、素材価格＞



＜岐阜県林業所得＞



日本林業協会「我が国の森林・林業の現状と課題」
※昭和55年の価格を100とした場合の指数。

※1 木材業者 素材生産を行う業者のこと。



3. 山林をとりまく現状と課題

①山林所有者の山離れ・林業離れ

林業の採算性の観点から所有者の森林整備に対する意欲が低下し、適切な森林管理が行われず、森林の公益的機能を維持していくうえで問題となっています。

今後、森林整備を進めていくためには、こうした山に関心のなくなった所有者にどう関心を持ってもらうかが大きな課題です。

②山林境界の問題

山林所有者の山離れ・林業離れとあわせて、所有者の高齢化・不在村化により、山林の境界の分からない人が増加しています。市内の林業グループが山林所有者に、山に関するアンケート調査を行ったところ、多くの所有者が山に関心は持っているが境界は分からないという結果もでています。また、以前は分かっていた場合でも、山の景観の変化により分からなくなってしまうことも多いうえに、今後境界を知っている人が年々減少してしまうことも考えられるため、このまま放置するとさらに進行するものと思われます。このため、境界の明確化は市内全域で取り組む必要があります。

③山林に対する要請の多様化

これまで、山林に対する人々の期待は木材生産や水源かん養、山菜やきのこなどの特用林産物※1の供給などでしたが、近年は保健休養機能や地球温暖化防止機能等多様化しており、これらの期待に応えられるよう適切な森林整備の推進とともに、新たな視点にたった山づくりが求められています。

そのためには、様々な人々が山づくりに参画できるような体制づくりを進め、これまでは山林所有者のみで支えてきた山づくりを、今後は地域や社会全体で支えていくことが必要です。

※1 特用林産物 きのこと類、山菜類、薬用植物、木炭などをいう。

○森林・林業をとりまく国際、国内情勢

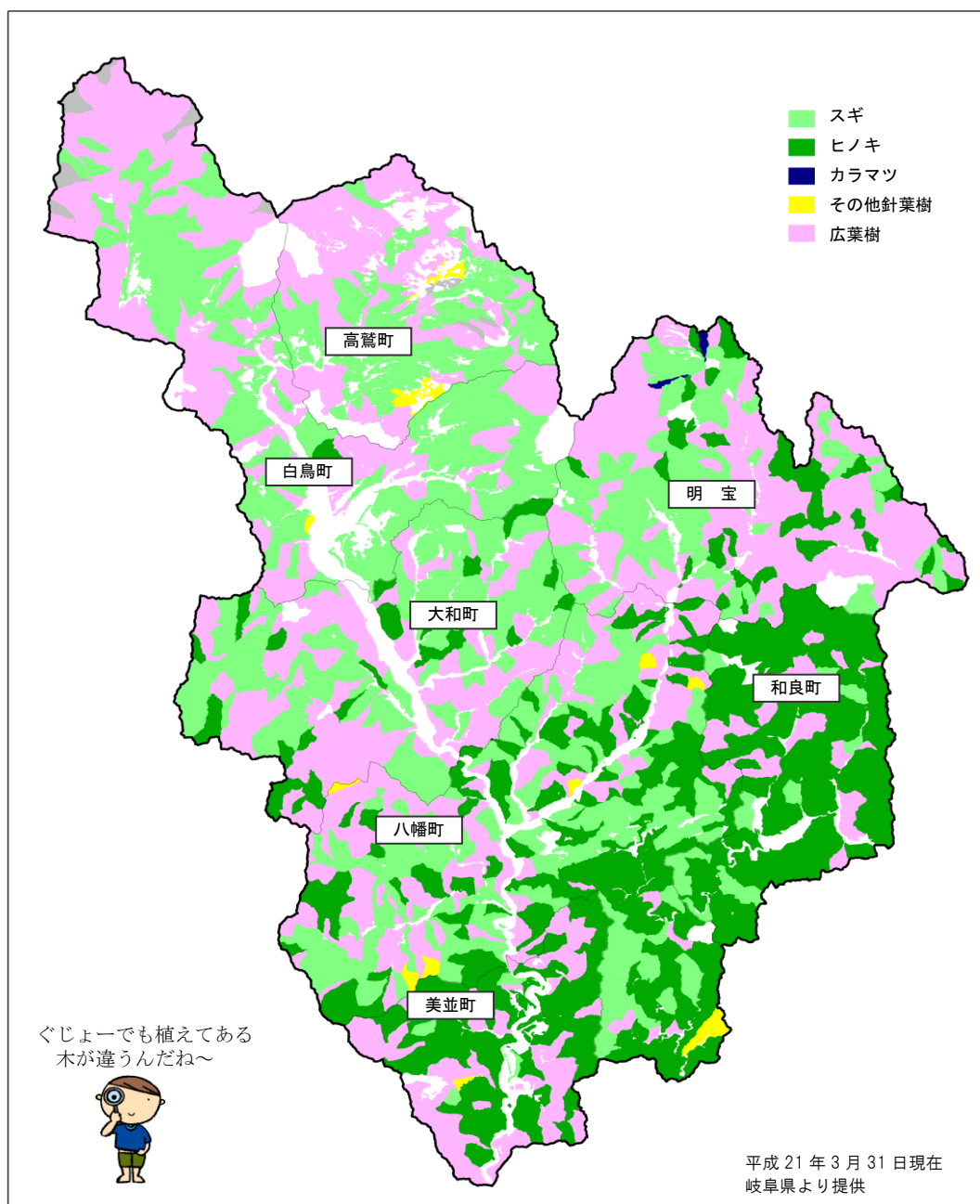
■国際情勢

- ・世界の森林面積は減少し続けており、平成3年から平成12年までの10年間で、年平均940万ha（日本の国土面積の25%に当たる）が減少しています。
- ・森林の減少の進行は、洪水や渇水だけでなく地球温暖化や、生物や植物の生存に関わる地球的規模の問題をもたらしています。
- ・先進国の木材輸入は、開発途上国の違法伐採を誘発していることから森林認証制度の取り組みが広がっています。
- ・平成4年のブラジルでの第1回地球サミットにおいて、地球温暖化防止に寄与するとして森林の機能が見直され、森林の保全と利用を両立する「持続可能な森林経営（リオデジャネイロ宣言）」の考えが採択されました。
- ・平成9年に「地球温暖化防止京都会議」において、二酸化炭素の吸収源として森林の役割が再確認され、植林と持続可能な森林経営の推進が合意されました。

■国内情勢

- ・日本は国土面積の7割を森林が占め、森林資源が豊富な国ですが、木材供給は海外に依存しており世界有数の木材輸入国です。
- ・国民の価値観が「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと変わり、森林の保養の場としての機能が期待されています。
- ・森林の有する地球温暖化防止機能、災害防止機能等への期待から、環境保全への動きが高まっています。
- ・近年、環境意識の高まり等により木材供給を海外の輸入に頼らず、国内資源へと移行する動きがあります。
- ・平成10年に「地球温暖化対策推進大綱」が決定され、森林による二酸化炭素の削減目標が設定されました。
- ・平成10年に「推進大綱」に基づく「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」が策定され、森林整備や木材利用の推進目標が設定されました。
- ・平成13年には「森林・林業基本法」が改正され、これまでの「木材生産と林業の発展」から「森林の多面的機能の持続的発揮」を図るための施策へと大きく変わりました。

郡上市樹種別分布図



一般的に、ヒノキはやせた土地を好むため山腹上部や尾根付近に、スギは肥えた土地を好むため山腹下部や沢沿い等に植えられます。

八幡町・美並町・和良町の植林樹種はヒノキが多くなっています。それに対して、高鷲町・白鳥町・大和町・明宝は広葉樹の割合が高く、植林樹種はスギが多くなっています。

これは降雪量と土壌が大きく関係しており、①ヒノキの幼齢木は雪圧に弱いこと。②スギはヒノキよりも肥沃な土壌を好み、北部には黒ボクなどの肥沃土壌が多いこと。③和良などの東部は濃飛紋岩が母岩となっており、一般的に痩せた土壌なためヒノキの適地であること。④美並などの南部はチャートが母岩となり、急傾斜地が多く痩せた土壌なためヒノキの適地であること。などがあげられますが、降雪量の少ない地域では売買価格の高いヒノキを好んで植えられたことも影響しています。

第3 郡上市の山づくり

1. 山づくりの基本理念
2. 山づくりの考え方
3. 目指す山の姿

第3 郡上市の山づくり

1. 山づくりの基本理念

豊かな山づくり、山の恵みを活かす仕組みづくり、人づくりを進め、「山美しく、水清く、幸巡るまち」郡上を創り伝えます。

あえて郡上市は森、森林ではなく「山」にこだわりました。

山は、山岳、森林、天然林、人工林、里山、雑木林、土、草すべてを総称し、山は、暮らしの延長、山村の暮らし、遊びの場を意味します。

かつて、山はより生活に密着した存在でした。日常生活に必要な薪や炭、家を建てるための木材、山菜やきのこなど、山村に住む人々は山から多くの糧を得て山と深く関わって暮らしてきました。

しかし、家庭用燃料が薪から電気・ガス・石油燃料へ転換したことや、生活様式の変化などにより、人々は山を生活の場として利用しなくなり山への関心も薄れ、しだいに、山は近くにありながら遠い存在となってしまいました。

そして近年、社会は「消費型・スピード型」から、「循環型・持続型」へと変化し、スローライフを求める意識や環境保全を重視する意識が高まってきました。こうした持続可能な循環型社会とは、山と生き、山の恵みを生活に活かしてきたかつての暮らしの中に本来、あったものです。私達は、今一度山との関わり方を見つめなおし、山と人の新たな関係を構築し 100 年先も山の恵みを享受しつづけられる山づくりをすすめる必要があります。

昔、中国の詩人杜甫は「国破れて山河あり」という言葉を残しましたが、これは「都は荒れてしまったが、山や河は昔のままである」という意味です。しかし逆に、山や河が荒れてしまったらどうなるでしょうか。人は山からの恩恵を受けられなくなれば、豊かな生活を送ることができません。私達は、山と人の過去から未来へ続くその過程におり、長い年月のかかる山づくりの一部を担っています。

先祖から受け継がれた山を未来の世代へつなげるため、循環可能な山づくりを進め、豊かで幸せな地域社会の実現につなげたいと考えています。



明宝寒水

2. 山づくりの考え方

山づくりには次のような考え方が必要ではないでしょうか。



山はみんなの財産です



災害防止や水源かん養などさまざまな価値を持っている山々は、祖先から受け継がれてきたかけがえのない財産であり、生活を維持していくためにかかせないものです。

今後は、こうした山の価値を林業としてだけでなく、さまざまな価値を持つ市民共有の財産として、守り育て、伝えていく責任があります。



山で働く人は環境を守っている



人々の暮らしを守り支えてきてくれた山やその山で働き、育てている人達を、市民全体で支えていくことが望まれます。そのためには、市民一人ひとりが山から与えられる多くの恵みに感謝し、山の現状や整備の重要性、林業という職業について十分理解し、協力して山づくりをすすめる必要があります。

山の防人として働く林業従事者の仕事は、常に危険と隣り合わせの大変な仕事です。林業は現在、経済活動としては難しい状況ですが、林業従事者のおかげで山が守られていることを忘れてはいけません。

今後の山づくりを進めるには、市民生活や環境を守る林業を公共性の高い事業として社会が認知し、賃金や労働環境の改善を図って、山で働くことが誇りであり、憧れである社会となる必要があります。



水と緑と心のふるさと



私たちの祖先は、郡上の山村で豊かな自然と向き合いながら暮らしてきました。山を生活の場、遊びの場として利用し、祠をまつり山へ入るときや木を伐るときには山の神にお祈りしました。子孫の繁栄を願って木を植え、懸命に手を加え、育ててくれました。

その緑の山々は今、清らかな水を育み「水と緑と心のふるさと」郡上をつくり、支えています。祖先の努力によりつくり護られてきた豊かな山と、山で育まれたその知恵も「大事な資源」と考え、活かし伝えることが山と人々を元気にすると考えます。



再生がキーワード



山は多くの野生動植物の生息・生育の場となっており、その養分は魚を育て川や海を潤すとも言われています。私たちは、山が支える生態系やさまざまな命がつながりあい、支えあっていることを理解し、山を価値ある資源としてとらえ維持・再生していく必要があります。

山を再生していくためには、人を育成して地域の再生を図ることが重要です。そのため、地域での山づくり活動を支援し地域の元気を支えるとともに、山の大切さを伝えることで郷土への誇りと愛着を持つ人の心を育成します。こうした多様な「再生」に取り組み、郡上市は「山を活かすまち・山と生きるまち」となることを目指します。

3. 目指す山の姿

健全で多様な山づくりを進め、環境的にも生態系的にも豊かで美しい山を目指します。100年後の郡上市では山と人が共存し、山が利活用され生活と身近なものになっています。

山の姿

山の機能を高めていくことによって、100年後の山が非常に美しくなって、郡上全体が多様なビオトープ※1として機能している。

<現 在>

- ・放置され荒廃した山が増大している。
- ・間伐が遅れて密植状態のため、木が育っていない。
- ・伐期にきている木が多い。
- ・野生動物が田畑に頻繁に出没する。
- ・病害虫による被害が拡大している。
- ・広葉樹林がうまく活用できていない。
- ・谷の水が枯れ、アマゴがいなくなった。
- ・適地、適木、適期の山づくりがされていない。

<100年後>

- ・より美しく災害に強い山になっている。
- ・手入れ不足の人工林は存在しない。
- ・郡上は山を育てながら利用し、自立している。
- ・野生動物が山で豊かに暮らしている。
- ・山は優れた生態系になっている。
- ・人と自然が共存している。
- ・より清らかで豊かな長良川である。
- ・郡上版森林官(フォレスター)※2によって市内の山全体が適切に管理されている。

林業の姿

「伐る→使う→植える→育てる」森林資源の循環サイクルが構築されている。
林業が地球を守る仕事として広く周知され、林業や関連産業が盛んになっている。

<現 在>

- ・木材価格が安すぎて採算が合わない。
- ・外材の輸入により、林業が低迷している。
- ・自分の山の材が活用されていない。
- ・木が育っているが、道がないため材がだせない。
- ・作業道により山が破壊されたりする。
- ・良い材を育て、使うことを考えたら。
- ・材価が安いと、山に関心も持てないし投資する気になれない。

<100年後>

- ・林業、木材産業が成立している。
- ・郡上の住宅、公共施設は郡上の木で建設され、地産地消がなされている。
- ・安定的、計画的に木材を生産している。
- ・林業は環境に調和したものとなっている。
- ・地域のエネルギーは山（バイオマス※3、マイクロ水力※4）がまかなっている。
- ・木材をはじめとする山の資源を今以上に多様に活用している。

※1 ビオトープ 生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間。

※2 郡上版森林官 本書では民有林を管理・経営する技術者をいう。フォレスターは愛称。

※3 バイオマス 生物に由来する再生可能な資源(石炭、石油の化石燃料を除く)

※4 マイクロ水力 水路などの落差を使って発電する簡易水力発電をいう。

山と人の関わる姿

人々が郷土を愛し、誇りを持って生活している。
すべての人々が山づくりを支え、豊かな山の恵みを受けて幸せに暮らしている。

<現 在>

- ・ 山への関心がない。
- ・ 境界がわからない。
- ・ 山が荒廃し、川や魚に悪影響を及ぼしている。
- ・ 学校や社会で山の正しい知識が教えられておらず、普及していない。
- ・ 個人では山の整備に対応できない。
- ・ 所有者や林業従事者の高齢化による担い手不足が懸念される。

<100 年後>

- ・ 地域の人々が山に親しみを持っている。
- ・ 全ての山の境がわかっている。
- ・ 下流地域との連携がなされている。
- ・ 子どもたちは学校で山のことを教わり、大人も山に関する知識を有している。
- ・ 山林所有者は権利と共に責任・義務を有しているということを所有者自身が自覚している。
- ・ 山で働く人が増え、地域産業を担っている。

現在、山の奥地や急傾斜地、多雪地帯など、林業に適さない場所の人工林を適地・適木の理論に沿って森林整備してゆけば、100 年後には植生や生態系が豊かで公益的機能の高い山づくりにつながると予測されます。



野生動物が山で豊かに暮らし、人は山から得られる多くの恵みを享受しつづけられる「豊かな山」

【 森林の持つ多面的機能 】

森林はさまざまな機能を持っています。

森林は、水源かん養、土砂災害の防止、生態系保全、地球温暖化防止、木材の生産、保健休養など私たちの暮らしにかかせない多面的な機能を持っています。

森林は土砂の流出を防止し、
災害を防止します。

災害防止



樹々や下草により表面の土砂の流出が抑えられるとともに、深くはった根で土砂崩れが起こりにくくなります。

森林はおいしい水を与えてくれ、
洪水や渇水を緩和します。

水源かん養



森林に降った雨が土中にしみこむことで水質を浄化したり、洪水や渇水を緩和しています。

森林は二酸化炭素を吸収し、
地球温暖化を防止します。

地球温暖化
防止



樹々が光合成により二酸化炭素を吸収し、地球温暖化防止に重要な役割を果たしています。

森林は多くの野生動植物の
生息・生育の場となっています。

生態系保全



鳥類、昆虫類をはじめとする多くの野生動植物の生育・生息の場として、生態系を保全しています。

森林は暮らしに必要な木材や
山菜、キノコなどを供給します。

木材供給



環境に優しく再生産可能な、木材や山菜、キノコなどをわたしたちにもたらししてくれます。

森林はわたしたちを快適な
気持ちにさせてくれます。

保健休養



美しい景色、川のせせらぎや小鳥のさえずり、すがすがしい香りなどで人を快適な気持ちにしてくれます。

第4 基本方向と基本的施策

1. 基本方向
2. 基本的施策

1. 基本方向

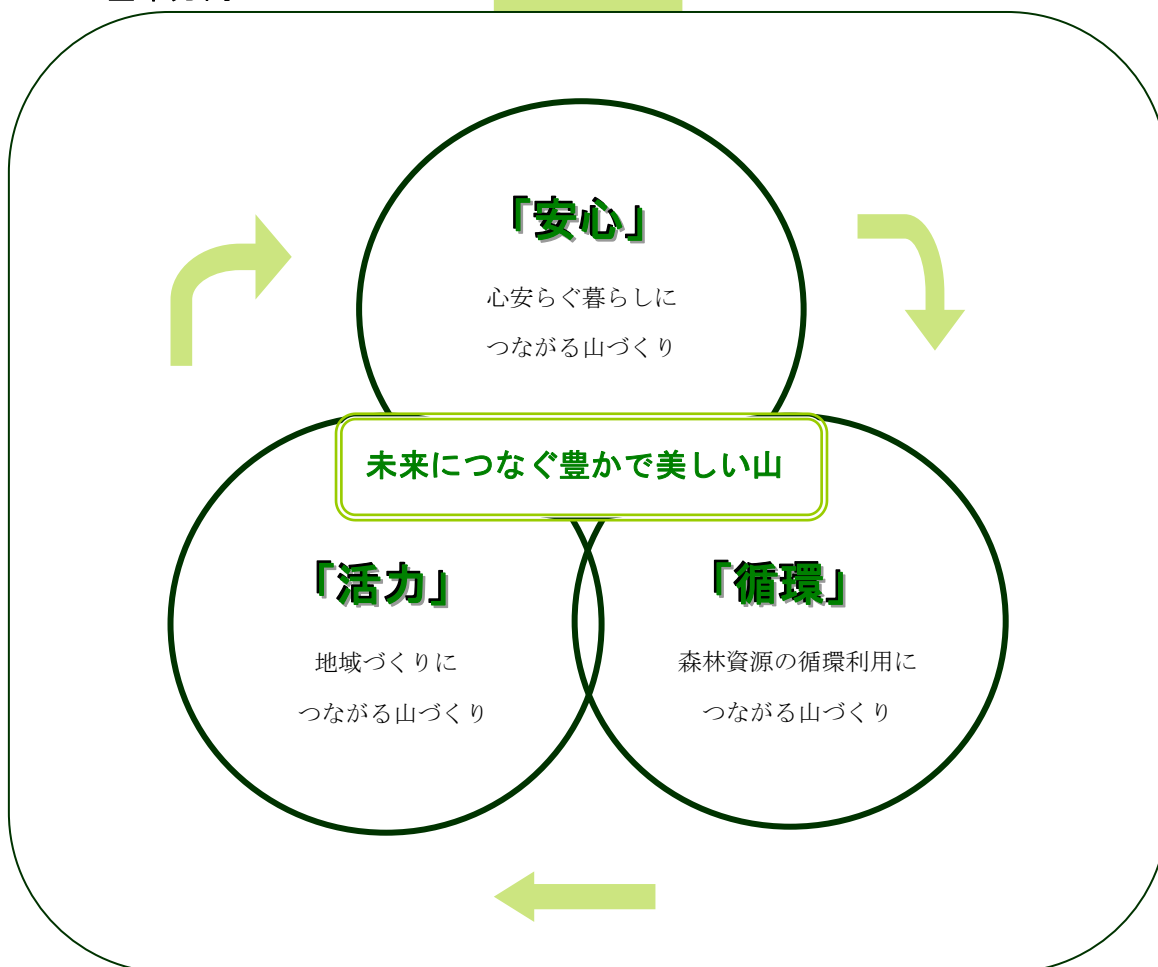
郡上市の山づくりは、市民生活を守る「安心」、森林資源を利用する「循環」、地域づくりにつながる「活力」の3つの柱を基本方向として進めていきます。

これらの3つの柱がお互いに深く関連し、支えあい、循環することによって、基本理念の実現が可能となり、豊かで美しい山が未来につながります。

基本理念

豊かな山づくり、山の恵みを活かす仕組みづくり、人づくりを進め、「山美しく、水清く、幸巡るまち」郡上を創り伝えます。

基本方向



「安心」～心安らぐ暮らしにつながる山づくり～

森林は多くの生命や水を育み、土砂の流出を防止するなど、市民生活の重要な基盤となっています。森林の持つ機能を高度に発揮させるには、森林の維持・再生を支えることが重要です。このため、自然環境の維持を重視する森林と木材の生産を重視する森林などに区分し、目的に応じた適切な森林整備をすすめるとともに、間伐の積極的な推進および計画的な循環利用を図ることで適正な保全を行い、心安らぐ暮らしを守る災害に強い山づくりを推進します。

「循環」～森林資源の循環利用につながる山づくり～

市内の森林資源の多くが育てることが中心だった段階から、利用しながら成熟させる段階へと移行しつつあります。再生可能な資源である木材を有効利用するため、郡上産材の利用促進および生産・流通体制の整備をすすめるとともに、「伐って、植えて、育てる」森林の循環を形成し、持続可能な循環型社会を目指します。また、「郡上生まれ、郡上育ち」の製品や、山からもたらされる多様な産物の利活用も推進し、山と暮らしのかかわりを見つめ直すことで山への関心を引き起こします。

「活力」～地域づくりにつながる山づくり～

過疎化・高齢化がすすみ、山づくりを担ってきた地域の活力と山村の文化は失われつつあります。そのため、山村生活に根ざした交流産業や自治会などによる山づくり活動を通して地域の活性化を図り、山村の営みや文化の継承を支援します。

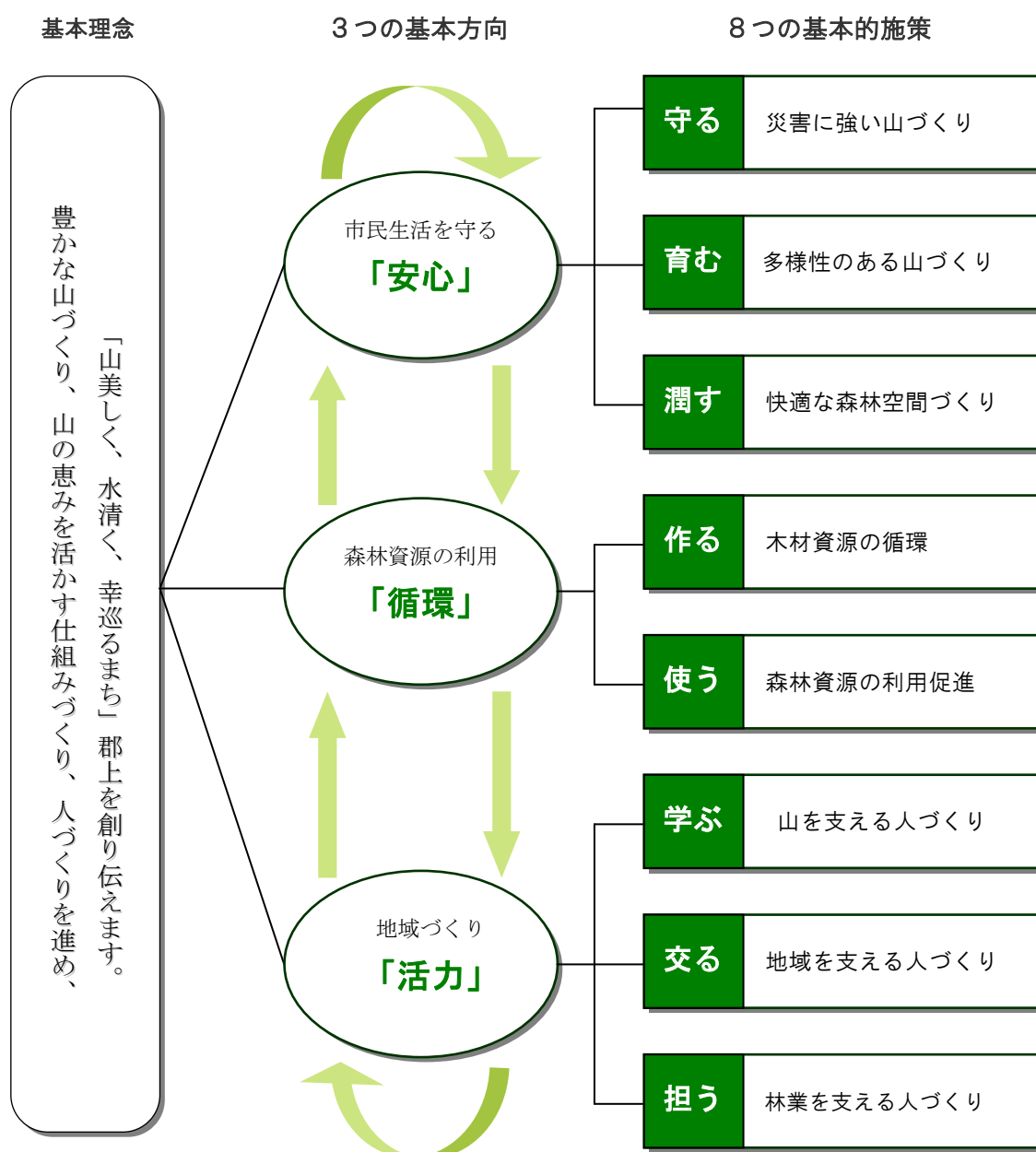
また、学校における森林環境教育の実施や様々な活動により、山づくり意識の普及・啓発を行い、市民全体で支える山づくりを目指します。

整備を担う林業従事者の確保・育成には、地域への定住促進も視野に入れた雇用の推進を図るとともに、各種研修の実施などにより技術の継承や育成を支援します。

2. 基本的施策

3つの基本方向「安心」「循環」「活力」に基づく8つの基本的施策により、山づくりを具体的に実施します。

<施策体系>



< 8つの基本的施策内容 >

【守る】 1. 災害に強い山づくり ～守ります！災害から～

人工林の間伐を重点的に実施し、公益的機能の増進を目指すとともに、治山事業^{※1}の推進や違法伐採の禁止を図ります。

【育む】 2. 多様性のある山づくり ～育みます！水と生命～

森林の多様な機能が十分に発揮されるよう、天然林・人工林・針広混交林^{※2}などの森林区分に応じた多種多様な森林整備をすすめ、豊かな水と多様な生命を育みます。

【潤す】 3. 快適な森林空間づくり ～潤します！心と生活～

市民の日常生活と関わりの深い居住地周辺の山を明るく見通し良くすることで、防災・景観・鳥獣害対策とするとともに、山の多目的利用を促進し市民が自然とふれあう場を提供します。

【作る】 4. 木材資源の循環 ～元気にします！郡上の山々～

環境に配慮した林内路網^{※3}の整備と団地化をすすめ、計画的・安定的な供給体制を整備します。また、伐採後の確実な更新と保育をすすめ、持続可能な森林整備を推進します。

【使う】 5. 森林資源の利用促進 ～すすめよう！木の暮らし～

郡上産材の住宅建築や公共施設の木造化・木質化を推進し、市民が木材と接する機会を増やすとともに、バイオマス^{※4}エネルギーなどの多様な利用を図り、地産地消を推進します。

【学ぶ】 6. 山を支える人づくり ～学びましょう！山のこと～

林業グループやNPO団体^{※5}等との連携のもと、学校林を活用した授業や、緑化少年団活動などを通じて子供たちに森林環境教育を実施します。また、各種イベントや広報活動によって市民への山づくり意識の普及・啓発を推進します。

【交る】 7. 地域を支える人づくり ～参加しましょう！山づくり～

放置林の解消及び所有界の明確化を進めるため地域座談会の開催や、地域による取組みを支援します。また、森林資源を活かした交流産業や下流域との連携意識の啓発を行い、地域の活性化を推進します。

【担う】 8. 林業を支える人づくり ～応援します！山で働く人～

IターンUターンの受け入れ態勢の整備等により、新規雇用を促進するとともに研修の実施や労働環境改善への支援を行います。

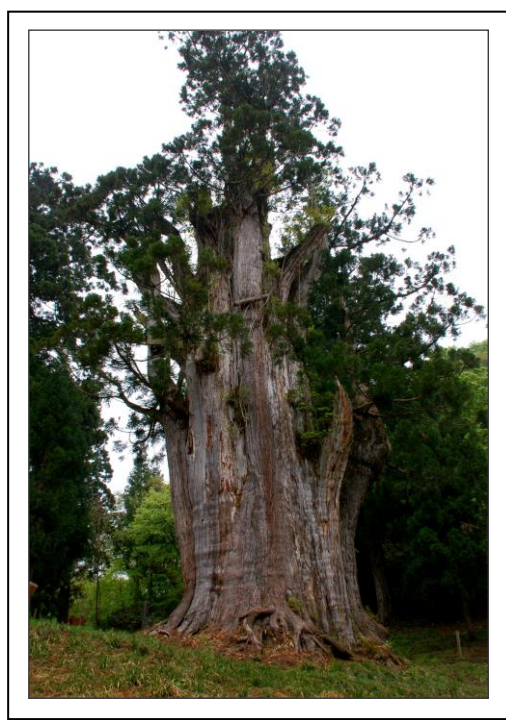
※1 治山事業 保安林の整備により山崩れなどの山地災害を防止し、生活環境の保全・形成等を図る事業。

※2 針広混交林 針葉樹と広葉樹が混じって生育する森林。

※3 林内路網 林道・作業道で構成される道路のネットワーク。

※4 バイオマス 生物に由来する再生産可能な資源（石炭、石油の化石燃料を除く）

※5 NPO団体 自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う団体。



いとしろ大杉(樹齢約1800年 樹高25m 幹周り13m)

おっきいね～



岐阜県下で唯一の国の特別天然記念物に指定された樹齢約1800年のいとしろ大杉。全国巨木調査で岐阜県で1位、全国で5位となっています。大人12人が手をつないでやっと囲めることから、別名を「十二抱えの大杉」とも呼ばれています。

第5 具体的事業

1. 災害に強い山づくり
2. 多様性のある山づくり
3. 快適な森林空間づくり
4. 木材資源の循環
5. 森林資源の利用促進
6. 山を支える人づくり
7. 地域を支える人づくり
8. 林業を支える人づくり

守る

1. 災害に強い山づくり ～守ります！災害から～

郡上市では、市民の生命・財産を守るために最重視すべき機能を水源かん養、山地災害防止の機能と考え、間伐を中心とした災害に強い山づくりを推進します。

①間伐の積極的推進

流木災害監視地域^{※1}や間伐の遅れている人工林を中心に計画的な間伐を推進します。

②違法伐採の禁止と伐採跡地の確実な更新

伐採後、植林されずに放置されるのを防ぐため、無届による違法伐採の禁止と伐採跡地の確実な更新を推進します。



枝打ち、間伐などの手入れがされた林内

③保安林と治山事業

特に公益的機能の高い森林は保安林に指定され、治山事業により必要な管理がなされます。市では県との連携により、危険箇所の把握や市民への情報提供に努めます。

山のつぶやき 1

山に植えたスギやヒノキの苗木が成長し、互いの枝がふれ合うようになると木々の間で競争が起こりはじめます。

さらに成長し樹冠が閉鎖すると競争が激しくなり、隣合う木々の間で成長に優劣が生じます。そのまま放って置くとひよろひよろとした細長い木々が多くなり、風や雪の被害を受けやすくなるだけでなく、林内が暗いため下草が少なくなってしまうです。

そのため、間伐を実施して木々の間の距離を調節し競争をやわらげ、残った木々の健全な生育や下草の成長を促します。下草があればその葉や落葉などに雨粒が当たって、直接土壌に当たらないため土壌の締め固めや流亡を防ぐことができます。間伐により林内を明るくし、多くの下草を生育させることが大切な土壌を保護することにもなるのです。



間伐が遅れて昼間でも薄暗い林内

※1 流木災害監視区域 平成 11 年の 9.15 豪雨災害を契機に、林地崩壊の発生を低減させる森林施業の重点実施と、流木災害再発の抑制を目的として指定された地域。

育む

2. 多様性のある山づくり ～育みます！水と生命～

災害に強い山づくりを基本として、森林構成や利用目的に応じた多様な森林整備・適正保全をすすめます。

<山づくりの方向性>

自然環境の維持・増進を重視する森林

- ・市民の安らぎや潤いのある生活に必要な環境保全、保養などの公益的機能を重視した森林。多様な生命や水を育む機能に配慮しながら、その土地に適した樹種による多様な山づくりをすすめます。

木材生産を重視する森林

- ・木材を安定的に供給する木材生産を重視した森林。計画的で効率的な森林施業により、木材資源の循環利用が可能な山づくりをすすめます。

① 森林整備の考え方

人工林

人工林とは人が苗木を植えるなどして造成した森林のことで、経済的価値、利用価値の高いスギやヒノキ等の針葉樹による一斉林施業^{※1}が主体でした。

林業経営が可能な人工林では、条件に応じて路網整備等により経営環境を向上させ、間伐などの適切な保育を適期に実施し、森林の健全性を確保しながら、持続的・安定的な木材生産を図ります。また、公益的機能を持続的に発揮しつつ、生産性の高い木材生産ができる長伐期施業^{※2}の導入の支援も行います。林業経営に適さない場合も森林の健全性の確保に努め、場合によっては針広混交林化や広葉樹林化を促します。

天然林

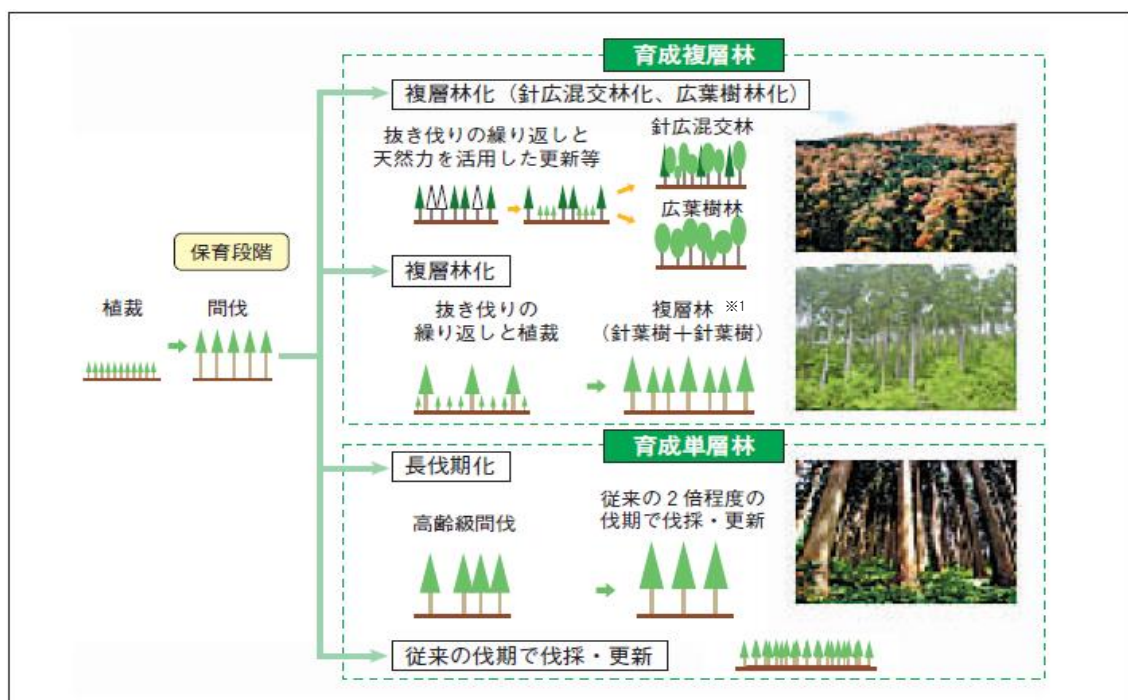
天然林には、人の手の及んでいない原生林の他にも、過去に人の手によって伐採されたり火災によって失われたりした後に自然に形成された二次林とがあります。

広葉樹を主体とした天然林は、自然の推移にゆだねる方向で健全性を確保することを基本とします。ただし、公益的機能発揮のため、維持・管理が必要な広葉樹林については、必要に応じて不要木の除去や保育などを実施し適切な保全管理を推進します。

※1 一斉林施業 皆伐跡地に一斉に植林して造った、単一の樹種による森林。

※2 長伐期施業 標準伐期齢のおおむね2倍以上の林齢で主伐する施業。

【多様な森林への誘導のイメージ】



平成 18 年度林業白書より

②森林情報の整備

森林の適正保全を行うためには、現状を把握する必要があります。しかし、広大な森林面積であるため、その情報量は膨大なものとなります。そこで、森林情報システム（森林GIS）※2を活用して情報を効率的に管理し、得られた情報をもとに森林整備が進むよう、所有者への働きかけを推進していきます。

さらに、地籍調査※3の早期実施についても関係機関と協議していきます。



病害虫による被害で枯れた木々

③森林病虫害対策

松くい虫やカシノナガキクイムシなど、市内で被害が拡大しつつある森林病虫害の現状把握とその対策を進めます。また、広葉樹のみならず針葉樹にも被害を与える外来種のマイマイガ※4など新種の病虫害の発生動向にも注視します。

人工林施業等により、極端に偏った森林構成が被害を助長していることも考えられるため、間伐などにより、中層、下層の植生を豊かにして健全な森林へ誘導します。

※1 複層林 主に樹種の違いによって、林内に異なる樹高の層が複数できた森林。

※2 森林情報システム(森林GIS) 地図や空中写真等の図面情報と文字・数値情報により、森林管理の効率化を図るシステム。

※3 地籍調査 主に市町村が主体となって、土地の所有者などの調査及び面積の測量等を行い、その結果を地図及び簿冊にすること。

※4 マイマイガ 森林害虫の一種で蛾。あらゆる樹木の葉を食べるが特にカラマツを好む。

潤す

3. 快適な森林空間づくり ～潤します！心と生活～

居住地周辺の山を適正に管理するためには、継続的に利用することが必要です。適正な管理のもとで、地域での生産活動・野外活動の場としての利用を促進します。

①居住地周辺の山の保全

利用されず放置された居住地周辺の山は公益的機能が発揮されないだけでなく、不法投棄の場ともなりやすいため、適正な管理の推進や地域での活動を支援します。

②鳥獣害対策

間伐が遅れた薄暗い林や草木の生い茂った藪は、野生動物の隠れ家、通り道となるため間伐などの森林整備を実施し、林内を明るく見通し良くします。



ブナハリタケ

③利用の促進

山菜やきのこなどの特用林産物^{※1}の採取の場として、またレクリエーションや体験学習の場としての継続的利用を促進し、市民が山と親しみ、山村文化の継承が図られることを目指します。

山のつぶやき 2

20 年ほど前までは、田んぼのあぜ道を歩けば湧き水にイモリがいてカニがいて、タニシやクソソボがいて、そんな風景があたりまえでした。

けれども、今ではいたるところがコンクリートで固められ、そのすきまからタンポポがさいていたりするとなんだかとてもけなげに思えるものです。たくさんいた昆虫や魚たち、草むらのやわらかくてあたたかい感触、太陽をうけかわいた草の匂い・・・こうした風景はどんどん失われつつあります。

私たちの大切な心のふるさと、山村の風景をいつまでも残したいと思いませんか。



小学校のカワゲラウォッチング

※1 特用林産物 きのこと類、山菜類、薬用植物、木炭などをいう。

作る

4. 木材資源の循環 ～元気にします！郡上の山々～

伐期を迎えた多くの木材資源を有効利用するため、供給体制を整備するとともに森林の循環を形成します。

①団地化の推進と機械化

効率的な森林管理を行うには、作業の集約化、効率化を図ることが重要なため、施業の団地化や高性能林業機械^{※1}の導入を支援します。



枝払いと玉切りを行う高性能林業機械（プロセッサ）

②路網の整備

木材の搬出には、林内路網の整備が不可欠のため、環境に配慮した路網を計画的・効率的に整備します。

現在は、郡上森林組合と各民間林業事業体により間伐など森林施業が実施されていますが、施業をスピードアップし市内全域を早急に実施していくためには、路網の整備を含め森林組合と林業事業体^{※2}、もしくは建設業界等との連携による森林管理体制づくりが必要となっています。

郡上市内高性能林業機械保有台数				単位：台
機械種名	森林組合	民間事業体	個人	合計
プロセッサ	4	1		5
ハーベスタ		2		2
フォワーダ		2		2
タワーヤーダ	1			1
スイングヤーダ	4	7	1	12
その他の高性能機械	5			5

平成20年度林業機械調査より

③森林の循環システムの構築

間伐を積極的に進めるだけでなく、森林面積や地形に応じて択伐^{※3}や小面積皆伐を検討し、計画的な更新と林齢構成の平準化を図ります。

※1 高性能林業機械 木の伐採や集材など、多くの工程を処理できる木材伐出用の専用機械。

※2 林業事業体 山林所有者に代わり、森林整備や木材生産などを行う森林組合、素材生産者等をいう。

※3 択伐 主伐の一部で、利用できる時期にきた木を計画的に繰り返し抜き切りすること。

使う

5. 森林資源の利用促進 ～すすめよう！木の暮らし～

郡上産木材の地産地消を推進するとともに、加工品や木造建築を含めた郡上産材の販売戦略を立て、市内外に向けてPRします。

①加工・流通体制の整備、商品の開発

木材加工・流通体制の低コスト化、合理化や郡上ブランド等の商品開発への取り組みを支援します。

②公共施設の木造化・木質化の推進

公共施設の木造化・木質化を推進し、郡上産木材の利用を促進するとともに、市民が木材とふれあう機会を増やします。



梁・桁等に木材が多く使用される木造住宅

③木造建築の促進

工務店や関係団体と連携し、郡上産材を使った住宅建築を支援するとともに、郡上産材のPRに努めます。

④森林資源の利活用促進

人工林で得られたスギ・ヒノキ等の針葉樹を木造建築に利用するだけでなく、加工品の利用促進や薪などの木質バイオマス利用を促進させます。

また、天然林で産出される広葉樹のきのこ原木や薪の有効利用、山菜など特用林産物の利活用も目指します。

山のつぶやき 3

薪ストーブにあたったこと、ありますか。部屋だけでなく家中が暖まり、暖かさも長持ちします。最近、新築住宅でも薪ストーブを備えつける家が増えてきています。石油やガスは、限りある資源でどんどん使えばなくなってしまうますが、木材は太陽の力で生産することができ、二酸化炭素を抑制する地球に優しい資源(木質バイオマス)です。

皆さん、家計・自分の健康のために木材を利用してみませんか。



市場に運ばれ、積み上げられた原木

学ぶ

6. 山を支える人づくり ～学びましょう！山のこと～

市民へ山づくりへの理解と関心を深めるため、学校や林業グループ等との連携のもとで森林環境教育を推進します。

①学校教育との連携

学校教育と連携を図り、児童・生徒に加え教職員等の指導者が森林・林業を体験できる機会を提供します。

また、学校林を活用した授業や緑化少年団活動などの支援を行います。

②市民への普及・啓発

森林教室の開催や広報活動等により、市民に山の現状や林業についての普及・啓発を図ります。

③林業グループ等団体の育成、強化

林業グループやNPO 団体、ボランティア団体の育成や活動の支援を行うとともに連携を図り、指導者としての登用を円滑化し、効果的な森林環境教育を実施します。



林業体験で間伐をする生徒（高鷲中学校）

山のつぶやき 4

市内では、山に高い関心を持ち意欲的に活動を行っている団体や個人の方がみえます。林業経験者などで結成されている林業グループでは、林業の研究や後継者の育成だけでなく、市内小中学校で林業体験や登山、クラフト体験などを指導しています。この他にも、団体や市民の参加による植樹活動や緑化少年団による森林体験活動などが行われており、今後さらに山に関心を持つ市民が増え、山づくり活動が活発化することを願います。



林業グループの方による森林教室を受ける牛道小学校の生徒

交る

7. 地域を支える人づくり～参加しましょう！山づくり～

森林資源を活かした地域づくりや取り組みを支援し、山村の暮らしのなかで
つちかわれた伝統や文化の継承を目指すことで地域の活性化を図ります。

①地域座談会の開催

間伐が遅れている現状や、山林境界の明確化対策、交付金制度の有効活用について再認識し、地域単位での施業団地化を促進するための地域座談会の開催に取り組みます。



地域座談会で森林組合の施業説明を聞く所有者

②下流域との交流の促進

下流域が行う上流域の森林整備として、岐阜市との「たずさえの森」※1を継続的に実施します。また、都市域の企業のCSR※2活動を積極的にすすめて、地域住民との交流も含めた山づくりを推進します。

③地域資源を活かした交流

林業体験や森林体験などにより、都市部との交流を促進し地域の活性化を目指します。

④山村文化の継承

木材利用に限らず、山菜やきのこなどの特産林産物の栽培・加工など、山村の暮らしを後世に引き継ぐための取り組みを支援します。

山のつぶやき5

皆さんは自分の山の境界や場所をご存知ですか。市で作成する土地の名寄帳には、山林として記載されているが一体、それがどこにあるのか分からない。といった方が多いのではないのでしょうか。親に場所や境界を教えてもらわなかった、郡上から離れたところに住んでいる、昔は分かっていたが山が変わってしまっていて分からないなど、さまざまな理由があるかと思います。この問題は、施業の団地化や林道開設などの森林整備を進めていくうえでも大きな障害となっています。さらに、これから世代交代などにより境界の明確化は困難となることが予想されます。境界の問題を解決するためには、まず皆さんが家族や地域で話し合い、山へ足を運ぶことが大切です。皆さん、家族と一緒に山へ行ってみませんか。

※1 たずさえの森 岐阜市が上流域の治山治水等を目的に費用負担を行って森林整備を進める事業で郡上市内には7箇所ある。

※2 CSR 企業の社会的責任のこと。森林整備などの環境保全活動に取り組む企業が増えている。

担う

8. 林業を支える人づくり ～応援します！山で働く人～

森林整備の担い手である林業従事者の数は年々減少しているため、新規就労者の定着率の向上や人材育成への支援を行います。

①新規雇用の促進

林業への新たな就業を希望するIターン、Uターンの定住を含めた受け入れ体制の整備等により、新規雇用の促進します。

②雇用環境改善への支援

森林組合をはじめとした林業事業体の労働環境の整備や、経営安定化に向けた取り組みを支援し、林業従事者の待遇改善を目指します。

③森林技術者の育成と技術の継承

造林から保育、伐採に対応できる技術者の育成とともに、架線集材^{※1}を含めた木材搬出技術の継承、さらには高性能林業機械による省力林業に対応できる人材育成を支援します。



大径木の伐採



林業グループによる研修

山のつぶやき5

皆さんは、カーボン・オフセットという言葉に耳にした事がありますか。カーボン(＝炭素)・オフセット(＝打ち消す)、直訳すると「(二酸化)炭素を打ち消すこと」という意味になります。これは、省エネを実行しても排出されてしまうCO2を、CO2を削減するためのプロジェクトに投資したり、植林や森林保護活動を行うことによって打ち消すことを意味しており、企業などでその取り組みが始まっています。今後は、カーボン・オフセットとともにJ-VÉR制度(環境省による、カーボン・オフセットを行う際に必要なクレジットを発行・認証する制度)の普及が進み、二酸化炭素吸収源としての森林への関心がさらに高まるものと思われます。

※1 架線集材 空中に張ったワイヤーロープを使って、伐採した木を集める方法。

□ 市有林の活用について

郡上市は、市内外に約 1,600ha（名古屋ドーム約 343 個分）の市有林を所有しており、その多くは戦後に植林されたスギ・ヒノキの人工林です。

市有林の中で最も歴史のある人工林は、大和町古道の旧郡有林で明治 32 年から 11 年かけて 131ha が植林され、現在樹齢 100 年を越えるヒノキも一部で育っており、創設記念林として整備、保全されています。

これまで市有林の木材による収益は、病院や高等学校の建築など多くの公共事業に活用されてきました。市では今後も、郡上市の山の模範林となるよう市有林の適正管理を進め、モデル林の設置や林材業関係者や学校の研修の場、市民の憩いの場として有効利用をすすめます。なお、平成 18 年度から郡上市森林づくり推進会議で市有林を利用した次のプロジェクトを実施しました。

利用間伐プロジェクト（大和町古道）

低コスト林業の確立を目指し、作業道の整備と高性能林業機械の導入による間伐実証試験を実施しました。その結果、①高密度軽作業路（幅員 2.5m）と高性能林業機械（チェンソー、ウインチ付きグラップル、プロセッサ、フォワーダ）の組合せによる車両系の搬出は、傾斜 30 度以下の緩傾斜地で有効。②前述の高性能林業機械を利用した 1 伐 2 残の列状間伐は生産性が極めて高い。③傾斜が 30 度以下で 1 伐 2 残の列状間伐※1では谷側に伐倒し、プロセッサで木寄せすると採算が良くなる。ことが実証されました。

環境保全モデル林整備プロジェクト（森林資源循環プロジェクト）（大和町内ヶ谷）

大和町内ヶ谷の市有林を環境保全モデル林として整備していくため、以下の 4 つのゾーンに分類し、適切な整備・保全を進めながら検証・検討を行います。

- ① 要間伐人工林：間伐が遅れている林分の整備を進め、人工林としての価値を高めるとともに、防災面でも健全な森林整備を行います。
- ② 針広混交林：広葉樹が進出して混交林化した不成績造林地は、当面は防災面を重視して針広混交林へ誘導して行きます。
- ③ 広葉樹二次林：皆伐後に天然更新した広葉樹二次林は自然植生に近い森林として自然遷移を見守ります。
- ④ 崩壊地・裸地：当面推移を監視し、必要に応じて治山事業を実施します。



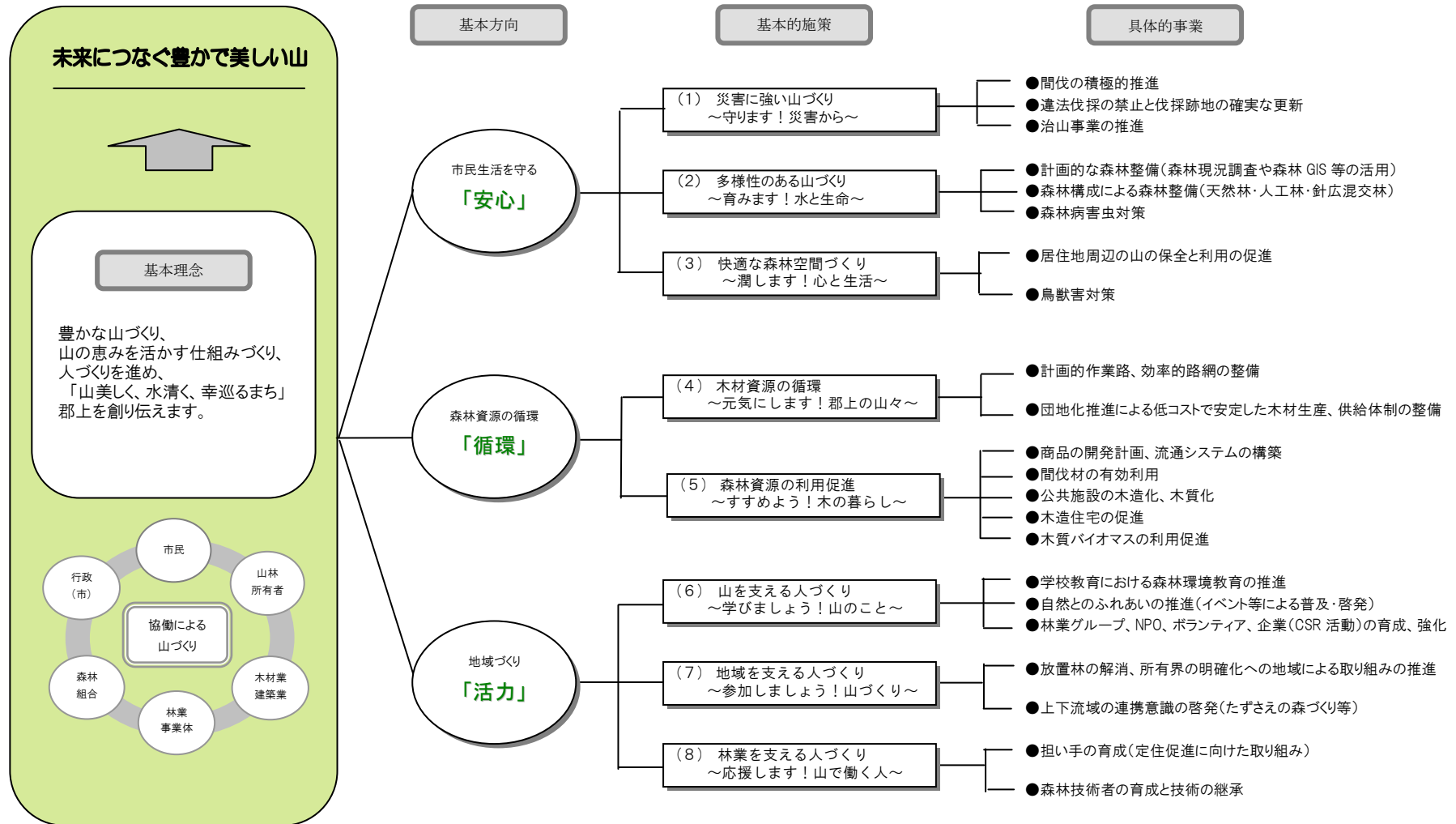
森林づくり推進会議の市有林（大和町）視察



列状間伐を実施後、間伐材が搬出された林内

※1 列状間伐 伐採や搬出に都合が良いように一定の間隔で単純に列状に間伐する方法。

郡上山づくり構想施策体系



第6 推進体制

1. 協働による山づくり
2. 山づくりの推進体制

第6．推進体制

1．協働による山づくり

郡上市の目指す山づくりを実現するためには、市民、山林所有者、木材業・建築業、林業事業体、森林組合、行政（市）がそれぞれの立場でできることやすべきことを理解し、協力して山づくりを進める必要があります。

<それぞれの立場からの山づくり>

市民

山を所有していない市民も、木材利用や山で行われる様々な活動を通じて、山への理解を深め関心を持つことが山づくりの第一歩となります。

山林所有者

所有する山の適切な管理を行うことで、災害に強い美しく豊かな山をつくることができます。また、境界確認を地域単位で取り組むことで、山づくりもより効率的・効果的に行うことができます。

木材業 建築業

地域の材を積極的に利活用し地産地消を実現するだけでなく、豊富な木材資源を市内外に供給します。

林業事業体 森林組合

様々な条件に応じた適切な森林施業を実施することで、木材資源の持続的・安定的生産を行うとともに安全・安心な市民生活を支える山づくりに貢献します。

行政(市)

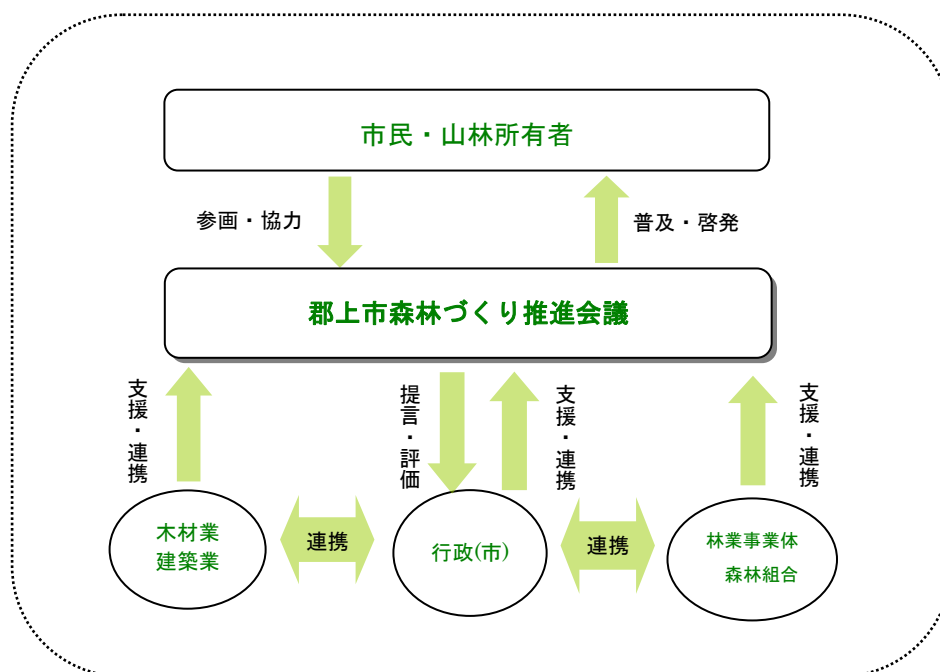
森林計画の策定や森林整備の支援、山づくりに関する普及啓発を進めるとともに、市有林の適正管理と多面的な活用を図ります。また、市民・山林所有者・林業事業体・森林組合や国、県との調整・連携を図り協働による山づくりの仕組みや体制を構築するとともに、積極的に施策を実行します。

2. 山づくりの推進体制

市民や林業関係者、森林組合、行政で組織された「郡上市森林づくり推進会議」において、施策の進捗状況や効果について社会情勢の変化を踏まえながら、本構想の実施状況、進行状況の点検、評価、見直しを行います。

この結果を踏まえ、必要に応じ本構想や施策の見直し、修正を行います。

<推進体制>



えんぴつも紙も
木からできてい



郡上八幡城は木造で再建された天守閣としては、日本で最も古く昭和8年の建築です。

日本で書かれた最も古い書物のひとつ『日本書紀』には樹木にまつわる話が書かれています。

天からスサノオノミコトが降りてきた時、樹木の種を持ってきて日本全体にまいて緑豊かにしました。スサノオノミコトはヒゲを抜いてスギの木を、胸毛を抜いてヒノキを、尻毛を抜いてコウヤマキを、まゆ毛を抜いてクスノキをつくり出し、その木材の利用について「スギとクスノキは船に、ヒノキは建物に、マキは棺（ひつぎ）に使うと良い」と言いました。そして、スサノオノミコトと一緒に樹木のタネをまいた三人の神（正式には三柱）が、木の神として祀（まつ）られていることが書かれています。

この日本書紀の記述から、約1,300年前の人々が樹木のタネをまく「緑化」の必要性和、樹種の特性をいかした木材利用まで知り尽くしていたことがわかります。

このように、古くから日本では木を植えさまざまなかたちで生活に利用する「文化」を育んできました。私たちも、先人達の豊かな知恵を受け継いで「木の文化」を誇り伝えたいものです。

資 料

1. 山づくり構想策定の経過

2. 委員名簿

☐ 用語の説明

1. 山づくり構想策定の経過

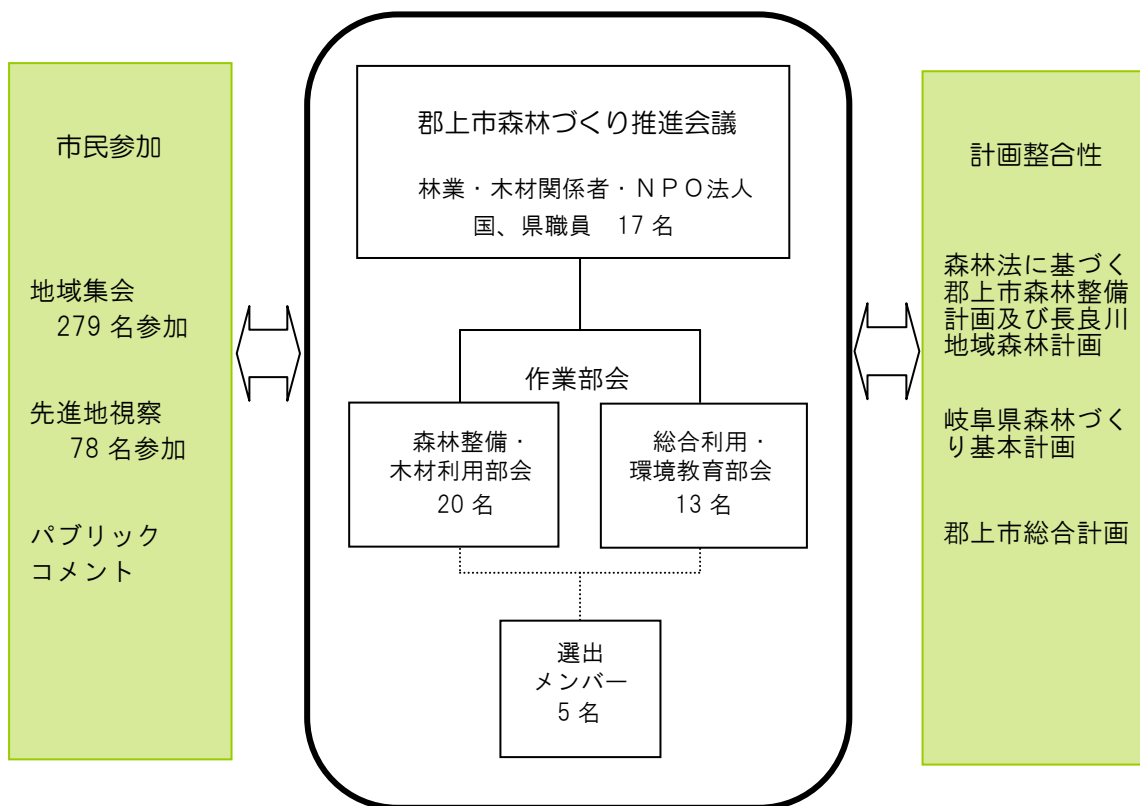
(1) 策定体制

① 策定の体制

郡上市森林づくり推進会議での体制を中心に、森林整備・木材流通部会、総合利用・環境教育部会の2つの作業部会を設置し、さらに選出メンバーによる会議を重ねながら山づくり構想の策定を進めました。

策定にあたり、最近の木材流通を巡る動向と情報収集を目的とした市民参加による先進地の視察や、より多くの市民の森林・林業に対する意見を反映させるため7地域で市民・森林組合推進員・林業事業者・森林組合等を対象とした集会を開催しました。

郡上山づくり構想の策定



② 策定の経過

年月日	内 容
平成 21 年 6 月 22 日	第 1 回森林づくり推進会議 ・構想策定について
平成 21 年 7 月 1 日	■第 1 回合同会議 ・策定体制、今後のスケジュール説明
平成 21 年 7 月 9 日	先進地視察 下呂市小坂町第 1 回
平成 21 年 7 月 16 日	先進地視察 石川県七尾市第 1 回
平成 21 年 7 月 24 日	先進地視察 下呂市小坂町第 2 回
平成 21 年 7 月 30 日	先進地視察 石川県七尾市第 2 回
平成 21 年 8 月 7 日	地域集会開催 高鷲
平成 21 年 8 月 19 日	地域集会開催 白鳥
平成 21 年 8 月 21 日	地域集会開催 和良
平成 21 年 8 月 27 日	地域集会開催 美並
平成 21 年 9 月 1 日	地域集会開催 八幡
平成 21 年 9 月 2 日	地域集会開催 明宝
平成 21 年 9 月 3 日	地域集会開催 大和
平成 21 年 9 月 9 日	■第 2 回合同会議 ・基本構想、骨子(案)について
平成 21 年 9 月 18 日	選出メンバーによる会議 ・基本理念について
平成 21 年 9 月 24 日	選出メンバーによる会議 ・目指す山の姿について
平成 21 年 10 月 15 日	■第 3 回合同会議 ・基本理念、基本方向、設定年度について
平成 21 年 10 月 26 日	■第 4 回合同会議 ・基本方向、基本的施策、名称について
平成 21 年 11 月 11 日	■第 5 回合同会議 ・基本的施策、具体的事業、推進体制について
平成 21 年 11 月 25 日	■第 6 回合同会議 ・具体的事業、推進体制について
平成 21 年 12 月 3 日	産業建設常任委員会へ説明・意見聴取
平成 21 年 12 月 18 日	市議会全員協議会へ説明
平成 22 年 1 月 1 日～31 日	パブリックコメントの実施
平成 22 年 1 月 15 日	産業建設常任委員会へ説明・意見聴取
平成 22 年 2 月 15 日	■第 7 回合同会議 ・パプコメ後、修正案について
平成 22 年 2 月 24 日	市長報告会

(2) 先進地視察

市民・林業関係者・森林組合等の方々と合板工場や集成材工場に足を運んで、最近の木材流通を巡る動向と情報収集を目的に先進地視察を企画実施しました。

岐阜県では国内最大級の合板メーカー、セイホク（株）を中津川市に誘致し、年間 10 万 m³の原木を消費する合板工場を平成 23 年度から稼働させる予定です。この合板工場によって、これまで利用されることが少なく林内に放置されてきた木材や切り捨て間伐材などが利用できるようになるため、今後の市場の動向が急速に変化することが予想されます。

① 開催日時・参加者数

視察先	回	日時	参加者		
			男性	女性	計
A 集成材工場	第 1 回	7 月 9 日（木）	14 名	2 名	16 名
	第 2 回	7 月 24 日（金）	13 名	1 名	14 名
B 合板工場	第 1 回	7 月 16 日（木）	24 名	3 名	27 名
	第 2 回	7 月 30 日（木）	19 名	2 名	21 名

総合計 78 名

② 視察先の概要

A 集成材工場視察

「飛州木工(株)」

下呂市小坂町落合 1184-16

平成 21 年から、セブン工業(株)の集成材ラインを買い取り、小坂木材総合市売協業組合が生産する国産ラミナ(集成材用単板)で、集成材を生産している。

「小坂木材総合市売協業組合」

下呂市小坂町門坂 1076

平成 15 年からラミナ製造を開始し、主に飛州木工へ供給している。



コンベアーで運ばれていく原木

B 合板工場視察

「林ベニヤ産業(株)七尾工場」

石川県七尾市大田町 110-43

本社は大阪市。舞鶴と七尾に工場を持つ。当時、使用不能とされていた針葉樹材の利用を開発し 1982 年に日本で初めて針葉樹合板の量産システムを完成した。



工場敷地内を見学する参加者

(3) 地域集会

7 地域にて開催した地域集会では、市民の山との関わりをテーマに参加者全員に意見を述べていただき、各地域の抱えている現状と課題、今後の山づくり・林業の将来的な方向性などについて多数のご意見をいただきました。

① 開催日時

平成 21 年 8 月 7 日 (金), 19 日 (水), 21 日 (金), 27 日 (木)

平成 21 年 9 月 1 日 (火), 2 日 (水), 3 日 (木)

② 参加者数

(人)

地区	八 幡	大 和	白 鳥	高 鷲	美 並	明 宝	和 良	合計
人数	47	59	50	28	26	39	30	279



境界問題から山を活かしたまちづくりまで、さまざまな意見が交わされた八幡町



ヒルが増えたことや植林された山を今後どう活かすか意見がでた大和町



病害虫被害や総合的な山づくりについて意見が交わされた白鳥町



20 代 30 代の参加者も多く、広葉樹について関心の高かった高鷲町



野生鳥獣や木材市場について意見が交わされた美並町



担い手不足の心配や生産森林組合について意見がだされた明宝



材を出すことやヒノキについて関心の高かった和良町



挨拶をする委員長の松本武先生



市役所による説明

③ 意見まとめ

地域集会であげられた現状と課題、そこから得られた郡上市の山づくりにおいて取り組むべき事項は次のとおりです。

森林を取り囲む現状と課題

- | | |
|------------|--------------------------------|
| ○ 山の状態 | ・ 放置され荒廃した山が増大している。 |
| ○ 木の状態 | ・ 伐期にきている木が多い。密植状態で育っていない。 |
| ○ 野生動物被害 | ・ 野生動物が田畑に頻繁に出没するようになった。 |
| ○ 病害虫被害 | ・ カシノナガキクイムシ、松くい虫による被害が拡大している。 |
| ○ 林業経営 | ・ 木材価格が安すぎて採算が合わない。 |
| ○ 作業道整備の遅れ | ・ 木が育っているが、道がないため材がだせない。 |
| ○ 所有者問題 | ・ 山への関心がない。 |
| ○ 山と川のつながり | ・ 山が荒廃し、川や魚に悪影響を及ぼしていないか。 |
| ○ 環境教育 | ・ 自然とのふれあいを通じ、山の大切さを伝える活動有り。 |
| ○ 保養の場 | ・ 山には安らぎの場、潤いの場としての魅力がある。 |
| ○ 担い手問題 | ・ 所有者や林業従事者の高齢化による担い手不足。 |
| ○ 境界問題 | ・ 境界がわからない。所有者間では調整がつかない。 |
| ○ 補助金制度 | ・ 制度が複雑すぎる。山の現状に合っていない。 |
| ○ 推進体制 | ・ 行政、森林組合の積極的な取組みへの期待。 |
| ○ 所有形態 | ・ 山林所有が小規模で、所有地が点在している。 |

多くの市民が森林を次世代に継承したいと考えており、そのための山づくりの重要性について認知しているが、山を取り囲む諸問題に対して個人での取り組みには限界を感じており、行政、森林組合の積極的取り組みに期待している。

郡上市の山づくりにおいて取り組むべき事項

1. 森林整備の推進（環境保全を重視した適地、適木、適期の山づくり）

- ・ 山の価値をこれまでの林業、産業としてだけでなく、さまざまな価値を有する市民共有の財産として環境保全を重視した森林整備をすすめる。

2. 地域資源の活用（森林資源および自然・文化を活かした地域の活性化）

- ・ 豊富な森林資源を活かすため生産・流通体制の整備、郡上産材の利用の促進を図り、地域経済の活性化をすすめる。
- ・ 恵まれた自然環境とともに育まれた歴史や文化を大切に、「郡上らしさ」として活かし交流産業の活性化を図るとともに生活の価値を高め、魅力あるまちづくりをすすめる。

3. 山づくり体制の構築（地域全体で山づくりを支える人づくり）

- ・ 山林所有者だけでなく市民一人一人が山づくりの大切さを認識し地域全体で山づくりを支えるため、環境教育の推進や山側の担い手の育成をすすめる。

④ 意見

【森林整備について】

- 山が荒れており、放ったらかしになっている。
- 谷川にも山道にも倒木があるが、処理する人がいない。
- 木が密植状態で光が入らないため、下草が生えず土がむきだしになっている。
- 人工林の山は手入れをしなければ崩壊する。
- 雪害にあった山をなんとかできないか。
- 一度荒れてしまった山を健全に戻すには時間と労力がかかる。
- 山は自分だけのものでなく公的財産という認識が必要。
- 適地、適木、適期の山づくりをしてほしい。
- 木を伐ったら植えてほしい。
- 広葉樹を伐って、針葉樹を植えるのはやめてほしい。
- 植えすぎた針葉樹林を間伐して明るいスギ、ヒノキ林をつくれば、広葉樹が育つ。
- 広葉樹林の手入れや利用、活用について考えてほしい。
- 下草が生えてくるような多めの間伐が必要でないか。
- 間伐をすると災害を未然に防止でき、環境保全にも役立つので良い。
- 間伐は補助金により個人負担が少ないため、皆へPRすると良いと思う。
- 間伐後の材を山に残してくるのはもったいないので、利用方法はないか。
- 補助金制度の内容が一般市民へ普及していないし、制度が複雑すぎる。
- 補助金は間伐だけでなく、搬出や混植についてもつけると良いのでないか。
- 戦後拡大造林政策により山づくりを行ってきたが、現状にあった山づくりをする
と良い。
- 市役所や森林組合がリーダーシップをとり、森林整備や境界の問題に取り組むと
良いのでないか。
- 放置林や手入れしたくてもできない所有者の山は、行政で対応できないか。
- 水を育てるため、公共事業として森林整備をすすめたらどうか。
- 山はお金にならないし、個人だけではむずかしい。行政には少しでも山を取り囲
む状況が良くなるよう考えてほしい。
- 防災面を考え、乱伐や開発に対する制限を設けて規制をしてほしい。
- 人が山に入らなくなったため、サル、イノシシ、シカ、ハクビシン、クマが人家
周辺の田畑までくるようになった。
- 沿道林修景をやれば、山の手入れもできるし獣害対策にもなる。
- 病害虫による被害が拡大しており、今のうちに対策をしてほしい。

【林業について】

- 道がないと山へ行きそびれてしまうので、道をつけてほしい。
- 道が崩れたままだが、今さら自分ではつけられないため山へ行けない。
- 木が育っているが、道がないため材がだせない。
- 作業道の維持管理が難しいので、良い方法や助成を検討してほしい。
- 個人では採算が合わないから維持管理も考えるとつけられない。崩れたら終わり。
- 山を荒らさない方法で道をつけないといけない。
- 小規模の山林所有者が多いため、道をつけると土地がなくなるため拒否されやすい。
- 道をつけようにも、所有者が市外の人だったり、皆に賛同してもらえないとつけられないため行政で調整役をしてほしい。
- 昔は山で儲け、山のおかげで生活してこれたが、今は林業は採算が合わない。
- 材の価値がないため、山に関心も持てないし投資する気にもなれない。
- 今は安いので、伐らずに大径木に育てる。
- 木の価格や山の情報を伝えてほしい。
- 郡上の木を郡上で使う、公共施設にも郡上材を使う地産地消も必要でないか。
- 和風家屋の建築促進を建築業者と行政が協力して行ったらどうか。
- 自分の山の材をもっと活用したらどうか。
- 外材でつくった集成材より、国産材の一本の木のほうが良い。
- 良い材を育て、使うことを考えたらどうか。
- 木材の流通経路の検討、見直しにより、所有者に利益が還元できないか。
- 小規模の所有者は、地域でまとめて売するような仕組みができないか。
- 地域で協力して材をだして山を活かせないか。
- 木材資源を、資源エネルギーとして有効利用すると良い。
- 恵まれた自然環境を農林業に将来、活かしていくと良い。
- 公有林も広く皆に開放し、利用していけると良い。



【環境意識・人づくりについて】

- 山が好きで自分で手入れをしている。
- 山に価値がないため、関心がなくなり行きたいとは思わない。
- 昔、山に木を植えたが今では安いので放ったらかしにしている。
- 山菜とりや溪流釣り、山水のつまりをとりに行くぐらいしか山に入らない。
- 若い人にももっと夢や関心が持てるようにしてほしい。
- 大事なことは、自分の山を親について回ることによって山に足を運ぶこと。
- 山に通えば愛着がわき、関心をもつことで災害防止に役立つのではないか。
- 山の大切さをPRして、次の世代につなげると良い。
- 山は金にならないから魅力がないというが、それは金銭面的な話で他にちゃんと価値がある。
- 元々、山は木を植えるためでなく薪や山菜をとるなど生活と深い関わりのあるものだった。
- 子どもたちに自然とのふれあいをとおして、山の大切さと郷土愛を伝えたい。
- 郡上は自然が豊かというのを活かしてまちづくりをしたらどうか。山林の防災意識を普及、啓発したらどうか。
- 昔は谷にアマゴがいっぱいいたが今は谷の水が枯れてしまったのは山が原因では。
- 川、海は森林が育てている。木を育てれば水が良くなってその恩恵を受けられる。
- 山を守り水を育てることは、上流域の責任である。
- 境界どころか、自分の山がどこにあるかわからない。
- この先も山が荒れていくと、もっと境界がわからなくなる。
- 若い者は山に関心がないため、境も教えられない。
- 次の世代になるとわからなくなるので、今のうちに対策が必要ではないか。
- 自分は境界がわかっているけど、隣地との了承が得られなかったり、地主が市外の人だと連絡もつかないので境界確定がむずかしい。
- 価値がなく世代交代している今なら、境界が確定しやすいのではないか。
- 地域で境界の話題をだせば、山のことを皆で考えるきっかけになると思う。
- 山を守るものがない地区のことを考えてほしい。
- 山で働く者の労働環境の改善を図り、後継者を育成しないといけない。
- 市外の若い者で山で働きたい者がいるが、働きぐちがないので受け入れ態勢を整えると良い。
- 地域資源を経済に活かす。山での雇用の場の確保が必要。
- 皆が山に関心を持てるよう、山師を育成したらどうか。

2. 委員名簿

郡上市森林づくり推進会議委員名簿

(50 音順 敬称略)

氏名	所属	備考
岩尾 誠	和良町林業経営研究クラブ会長	
大重 隆太郎	岐阜県森林整備課技術支援担当技術主査	
可児 隆一	郡上森林組合代表理事組合長	
上平 活良	郡上市林業グループ連絡協議会会長	
日下部 修	くさかべ林業(有)代表取締役	
清水 敏夫	郡上市議会産業建設常任委員会委員長	
庄村 保徳	(社)岐阜県林業経営者協会郡上支部支部長	
立入 純夫	岐阜森林管理署流域管理調整官	
原 富美子	郡上リーフ・レディース代表	
古川 秀樹	(有)古川林業代表取締役	
松本 武	岐阜県立森林文化アカデミー準教授	委員長
間宮 敏夫	岐阜県郡上農林事務所林業課長	
水野 雅夫	NPO法人「ウッズマン・ワークショップ」代表	
武藤 忠樹	(社)岐阜県林業経営者協会理事	
横井 秀一	岐阜県森林研究所森林環境部長	
若山 候清	大和町林業クラブ会長	
和田 定夫	郡上木材流通協同組合理事長	

○森林整備・木材利用部会 委員

(50 音順 敬称略)

氏名	所属	備考
秋田 耀子	長良川ウッド協同組合経営企画部	
荒井 誠二	(有) 荒井建築設計事務所所長	
一仏 英俊	白鳥町注文建築協会会長	
大重 隆太郎	岐阜県森林整備課技術支援担当技術主査	
大塚 明	大塚林業(資)専務	
可児 隆一	郡上森林組合代表理事組合長	
金子 晃	郡上森林組合森林業務部副部長	
河合 光	郡上市商工会美並支部長	
日下部 修	くさかべ林業(有)代表取締役	
小森 胤樹	(有)大原林産取締役専務	
清水 敏夫	郡上市議会産業建設常任委員会委員長	
高垣 英志	ディーブ・フォーレスト(株)代表取締役	
出崎 直人	郡上森林組合業務部林産課長	
平野 秀徳	長良川ウッド協同組合プロダクト部長	
古川 秀樹	(有)古川林業代表取締役	
間宮 敏夫	岐阜県郡上農林事務所林業課長	
美谷添 里恵子	白鳥林工協業組合理事長	
武藤 忠樹	(社)岐阜県林業経営者協会理事	
横井 秀一	岐阜県森林研究所森林環境部長	
和田 定夫	郡上木材流通協同組合理事長	

○総合利用・環境教育部会 委員

(50 音順 敬称略)

氏名	所属	備考
岩尾 誠	和良町林業経営研究クラブ会長	
上平 活良	郡上市林業グループ連絡協議会会長	
河合 美世子	NPO法人こうじびら山の家副代表理事	
河合 渉	郡上市林業グループ連絡協議会事務局	
庄村 保徳	(社)岐阜県林業経営者協会郡上支部支部長	
立入 純夫	岐阜森林管理署流域管理調整官	
仲谷 豊樹	郡上市林業グループ連絡協議会青年部長	
原 富美子	郡上リーフ・レディース代表	
三島 志真子	白鳥町林生会会員	
水野 雅夫	NPO法人ウッズマン・ワークショップ代表	
若山 候清	大和町林業クラブ会長	
和田 千春	郡上市観光連盟理事	

□ 用語の説明

あ行

一斉林施業

皆伐跡地に一斉に植林して造った、単一の樹種による森林。

NPO（エヌ・ピー・オー）団体

非営利団体。自治体や企業とは独立した存在として市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織。

か行

拡大造林

主に広葉樹からなる天然林を伐採した跡地などを針葉樹中心の人工林に置き換えること。

カシノナガキクイムシ

コナラなどの木材の内部まで穿孔して繁殖する昆虫の一種。

架線集材

空中に張ったワイヤーロープを使って、伐採した木を集める方法。

間伐

植林された樹木の成長過程で一部の立木を抜き切りして密度を調整し、残存木の成長を促す作業。

郡上版森林官（フォレスター）

本書では民有林を管理・経営する技術者をいう。フォレスターは愛称。

高性能林業機械

木の伐採や集材など、多くの工程を処理できる木材伐出用の専用機械。

さ行

CSR

企業の社会的責任のこと。森林整備などの環境保全活動に取り組む企業が増えている。

針広混交林

針葉樹と広葉樹が混じって生育する森林。

森林情報システム（森林GIS）

地図や空中写真等の図面情報と文字・数値情報により、森林管理の効率化を図るシステム。

森林病虫害

森林を構成する樹木を脅す微生物及び昆虫等の総称。

造林

樹木を植え育てること。

素材

立木を伐採し造材した丸太。

た行

択伐

主伐の一種で、利用できる時期にきた木を計画的に繰り返し抜き切りすること。

たずさえの森

岐阜市が上流域の治山治水等を目的に費用負担を行って森林整備を進める事業で郡上市内に7箇所ある。

治山事業

保安林の整備により山崩れなどの山地災害を防止し、生活環境の保全・形成等を図る事業。

地籍調査

主に市町村が主体となって、土地の所有者などの調査及び面積の測量等を行い、その結果を地図および簿冊にすること。

長伐期施業

標準伐齢期のおおむね2倍以上の林齢で主伐する施業。

特用林産物

きのこ類、山菜類、薬用植物、木炭などをいう。

は行

バイオマス

生物に由来する再生可能な資源。（石炭、石油の化石燃料を除く）

伐期

育林した立木が伐採、収穫に至るまでの時期。（主伐が予定される時期）

ビオトープ

生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間。

複層林

主に樹齢の違いによって、林内に異なる樹高の層が複数できた森林。

ま行**マイクロ水力**

水路などの落差を使って発電する、簡易水力発電をいう。

マイマイガ

森林害虫の一種で蛾。あらゆる樹木の葉を食べるが特にカラマツを好む。

松くい虫

マツを加害するカミキリムシ、キクイムシ、ゾウムシ、キバチの総称で、一般には、マツを枯らす線虫（マツノザイセンチュウ）を媒介するマツノマダラカミキリのこと。

民有林

個人・法人が所有する私有林と県や市町村が所有する公有林の総称で、国有林に対比して使われる。

木材業者

素材生産を行う業者のこと。

ら行**流木災害監視地域**

平成 11 年の 9.15 豪雨災害を契機に、林地崩壊の発生を低減させる森林施業の重点実施と、流木災害再発の抑制を目的として指定された地域。

立木価格

市場での価格から経費などを差し引いた立木の状態での価格。

林業事業体

山林所有者に代わり森林整備や木材生産などを行う森林組合、素材生産業者等をいう。

林業粗生産額

林業生産活動によって生み出された林産物の生産量に、それぞれの価額を乗じて産出した額。

林内路網

林道・作業道で構成される道路のネットワーク。

林齢

人工林では、苗木を植えた年を 1 年生として、以降 2 年生、3 年生と数える。

齢級

樹木の林齢を 5 年でひとくくりにし、林齢 1 ～ 5 年生までを 1 齢級、6 ～ 10 年生までは 2 齢級となる。

列状間伐

伐採や搬出に都合が良いように一定の間隔で単純に列状に間伐する方法。



切り株から発生した実生



郡上山づくり構想

平成 22 年 3 月

編集/発行 郡上市農林水産部林務課
〒501-4297 郡上市八幡町島谷 228
Tel 0575-67-2121
Fax 0575-66-0157

ホームページ <http://www.city.gujo.gifu.jp>
E-メール rinmu@city.gujo.gifu.jp